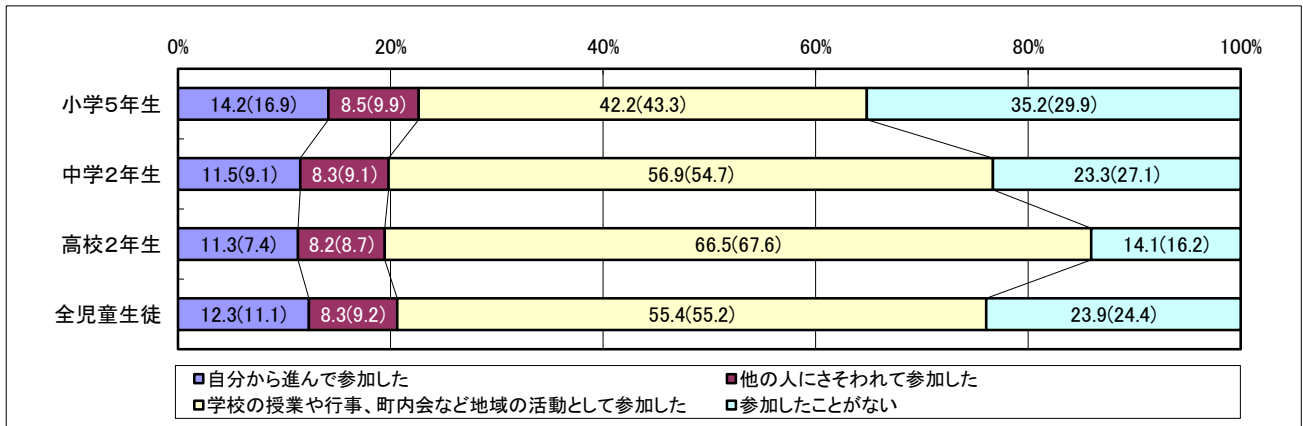
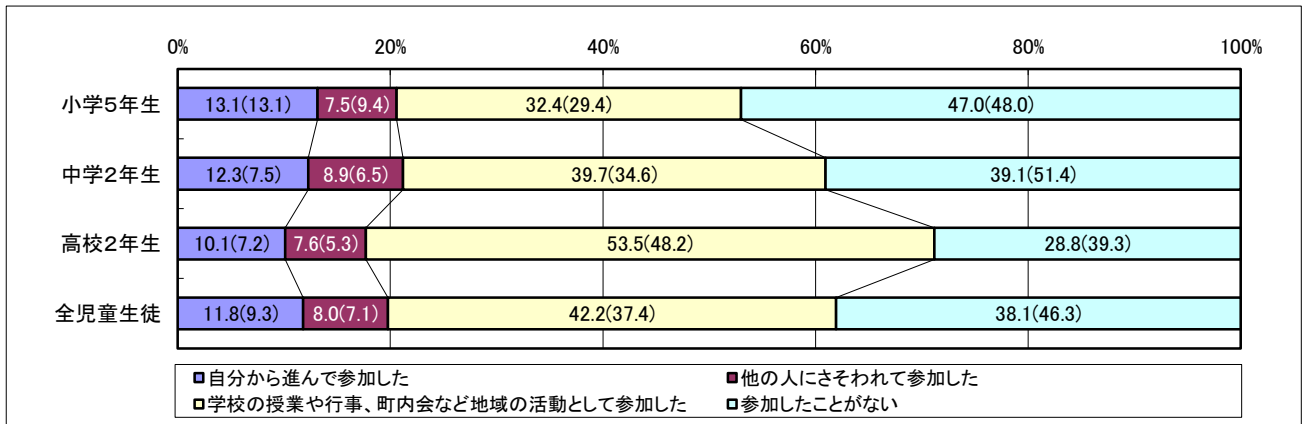




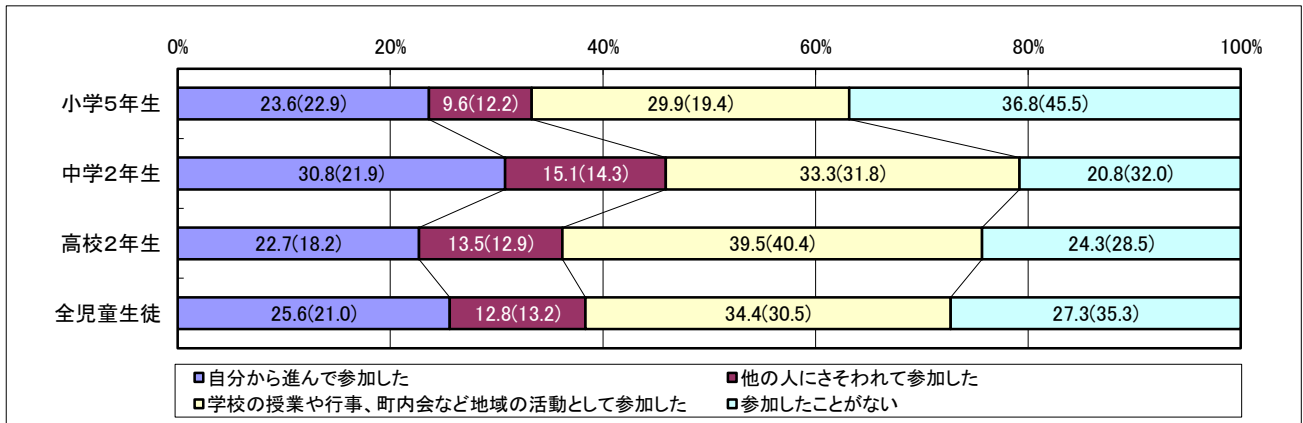
④道路、公園、海岸等の清掃活動



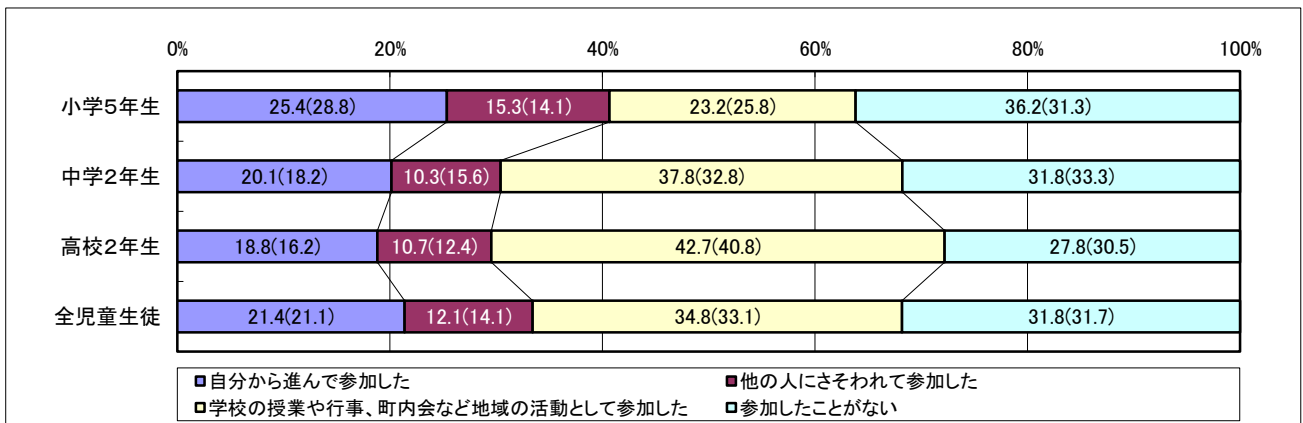
⑤古紙やアルミ缶等の回収・分別活動



⑥地域の伝統行事

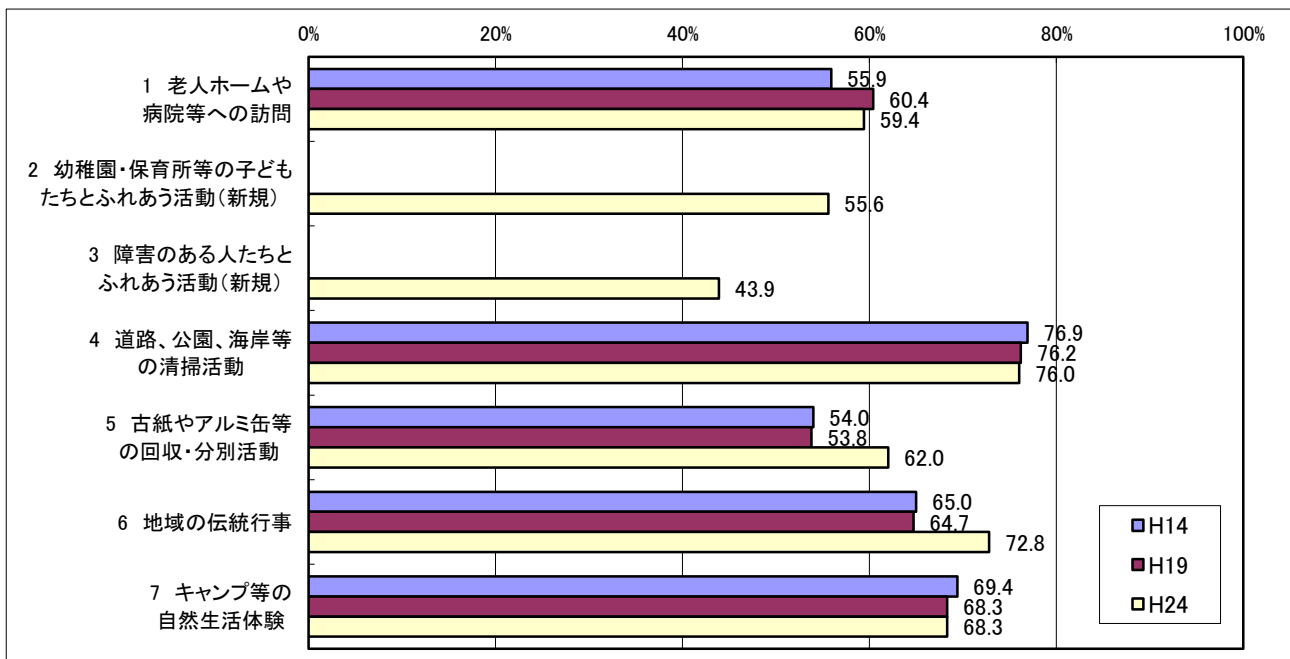


⑦キャンプ等の自然生活体験



- 「自分から進んで参加した」「他の人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と回答した全児童生徒では、参加した割合が高い順に、「道路、公園、海岸等の清掃活動」、「地域の伝統行事」、「キャンプ等の自然生活体験」、「古紙やアルミ缶等の回収・分別活動」、「老人ホームや病院等への訪問」、「幼稚園・保育所等の子どもたちとふれあう活動」、「障害のある人たちとふれあう活動」となっている。
- 「参加の仕方」については、「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と回答した割合は、「自分から進んで参加した」、「他の人にさそわれて参加した」と回答した割合を上回っており、学年が上がるにつれて増加している。
- 学年が上がるにつれて、「参加した」経験が多くなっている。「自分から進んで参加した」と回答しているのは、小学生が多い傾向にある。「自分から進んで参加した」が最も多いのは、「地域の伝統行事」である。
- 「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」が多いのは、「老人ホームや病院等への訪問」や「道路、公園、海岸等の清掃活動」である。

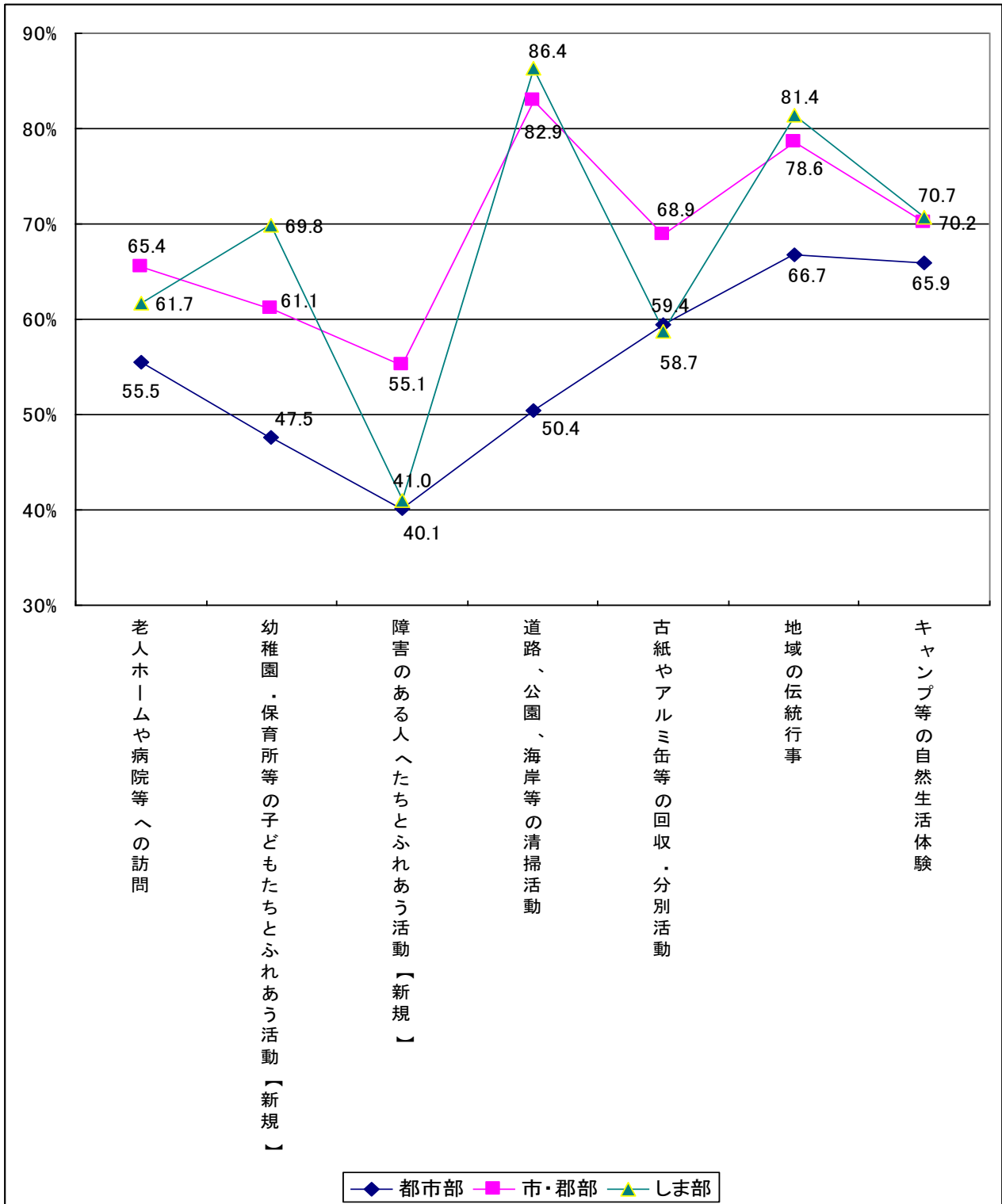
**【経年比較】7項目の体験活動について、「自分から進んで参加した」「他の人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と回答した割合（全児童生徒）**



- 平成 24 年度は、平成 14 年度と比較すると、「老人ホームや病院等への訪問」は 3.5 ポイント増加、「古紙やアルミ缶等の回収・分別活動」は 8.0 ポイント増加、「地域の伝統行事」は 7.8 ポイント増加している。

## 地区別

全児童生徒について、「自分から進んで参加した」「他の人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事・町内会など地域の活動として参加した」を合わせたものについて、地区別による比較を行った。

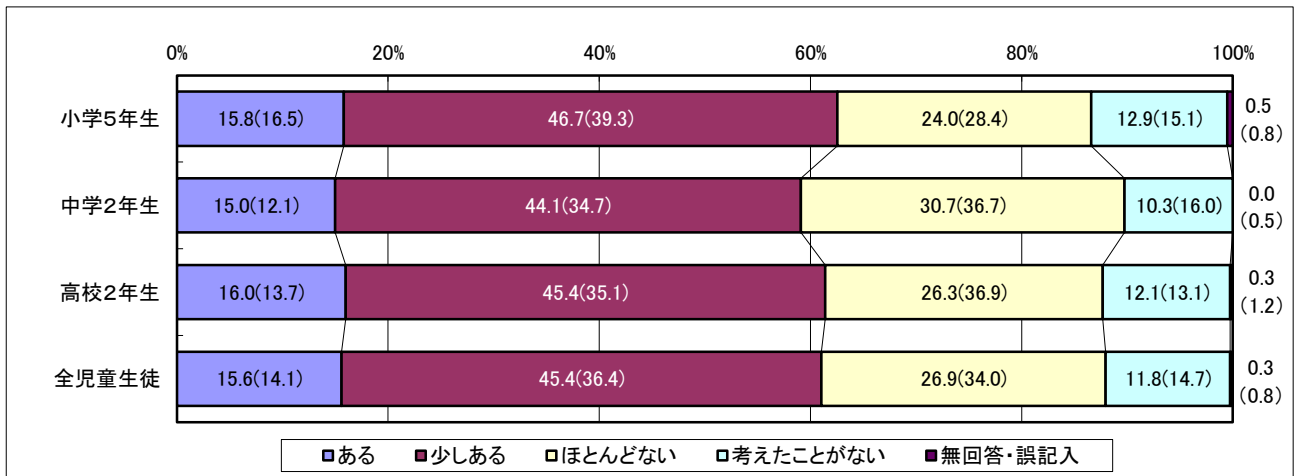


●参加状況に地区別の差異が見られる項目として、「幼稚園・保育所等の子どもたちとふれあう活動」（都市部 47.5%、市・郡部 61.1%、しま部 69.8%）、「道路、公園、海岸等の清掃活動」（都市部 50.4%、市・郡部 82.9%、しま部 86.4%）の二つが挙げられる。

●都市部は、7項目中6項目で一番低い割合を示している。

## 2 ボランティア活動への関心 【小学5年生…問26】 【中学2年生…問27】 【高校2年生…問28】

あなたはボランティア活動に興味がありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで、番号を○でかこんでください。  
 1 ある 2 少しある 3 ほとんどない 4 考えたことがない



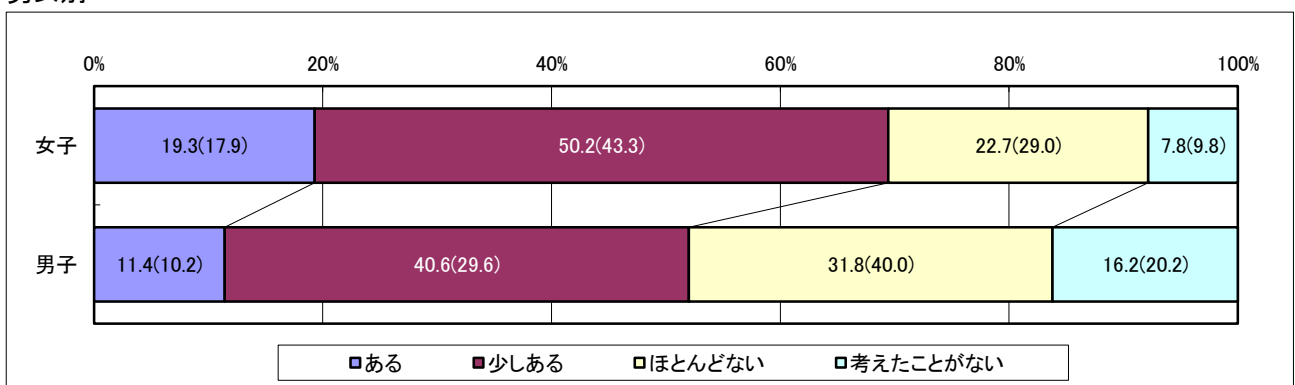
●全児童生徒において、「ある」「少しある」と回答した割合は、61.0%であり、平成19年度と比較して、10.5ポイント増加している。

### 【経年比較】「ボランティア活動への関心」に「ある」「少しある」と回答した割合

対象	年度	平成14年度	平成19年度	平成24年度	10年前との比較
小学5年生		57.7%	55.8%	62.5%	+4.8
中学2年生		51.6%	46.8%	59.1%	+7.5
高校2年生		57.8%	48.8%	61.4%	+3.6
全児童生徒		55.7%	50.5%	61.0%	+5.3

●平成24年度は、平成14年度と比較すると、全校種ともに増加している。全児童生徒を見ると、この10年間で5.3ポイント増加している。

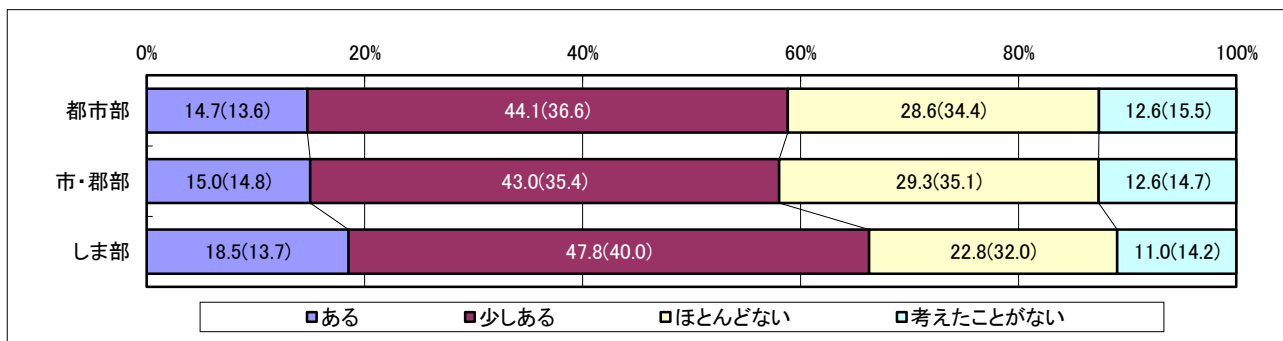
### 男女別



●「ある」「少しある」と回答した割合は、女子が男子よりも高い（女子 69.5%、男子 52.0%）。

●平成19年度と比較すると、「ある」「少しある」と回答した割合は男女ともに増加している（女子 8.3ポイント、男子 12.2ポイント）。

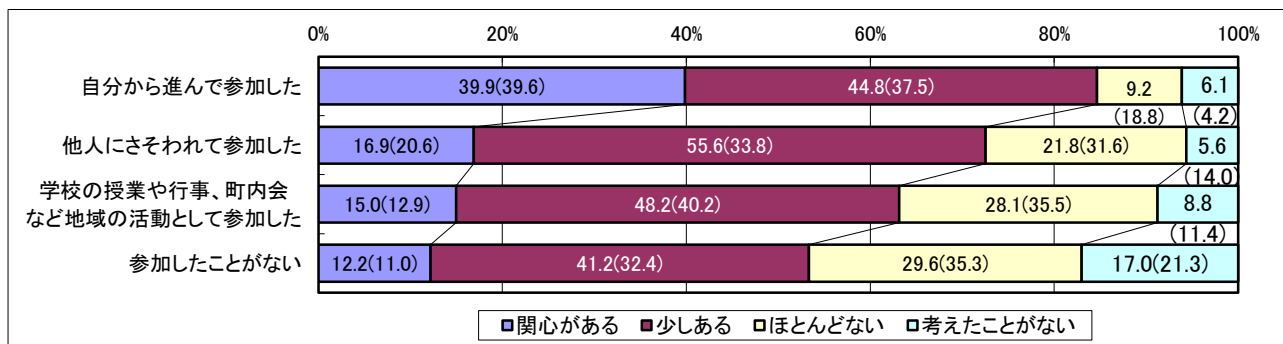
地区別



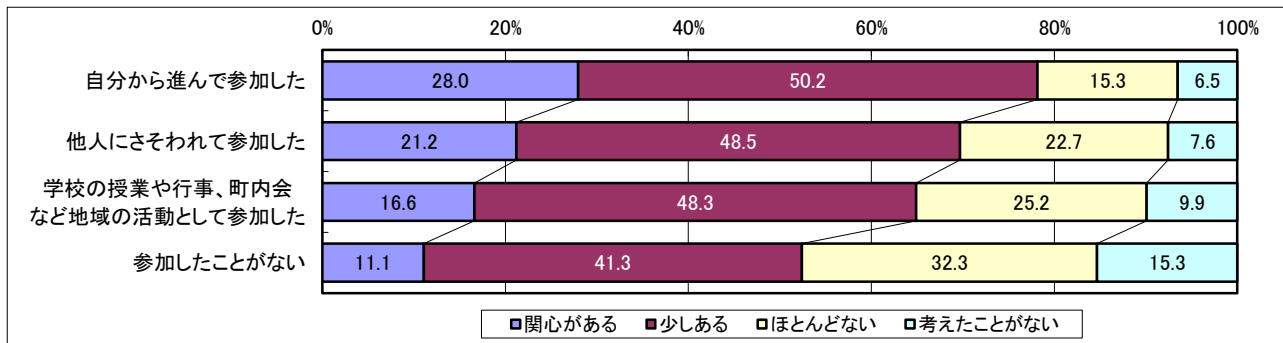
- しま部が、都市部、市・郡部に比べて高い（都市部 58.8%、市・郡部 58.0%、しま部 66.3%）。
- 平成19年度と比較すると、全ての地区で「ある」「少しある」と回答した割合は増加している。

【クロス集計】「参加した体験活動」と「ボランティア活動への関心」との関係

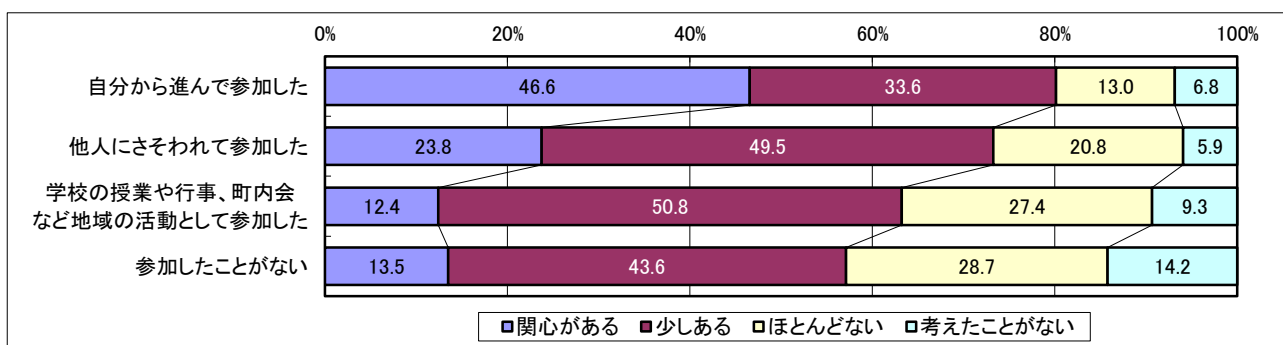
①「老人ホームや病院等への訪問」の経験のある者



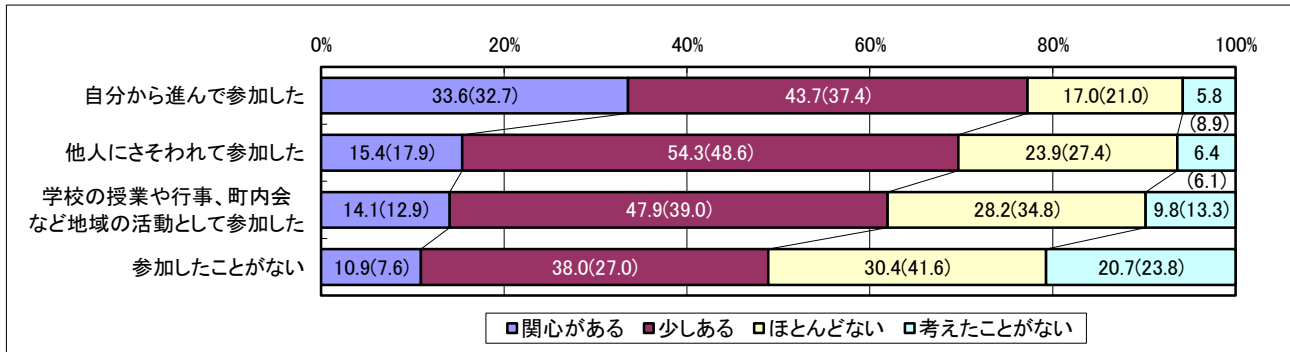
②「幼稚園・保育所等の子どもたちとふれあう活動」の経験のある者（新規項目）



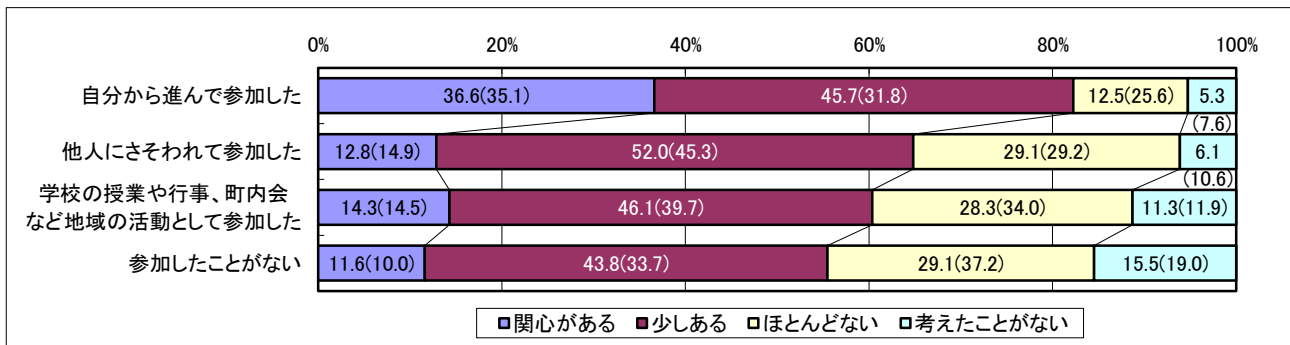
③「障害のある人たちとふれあう活動」の経験のある者（新規項目）



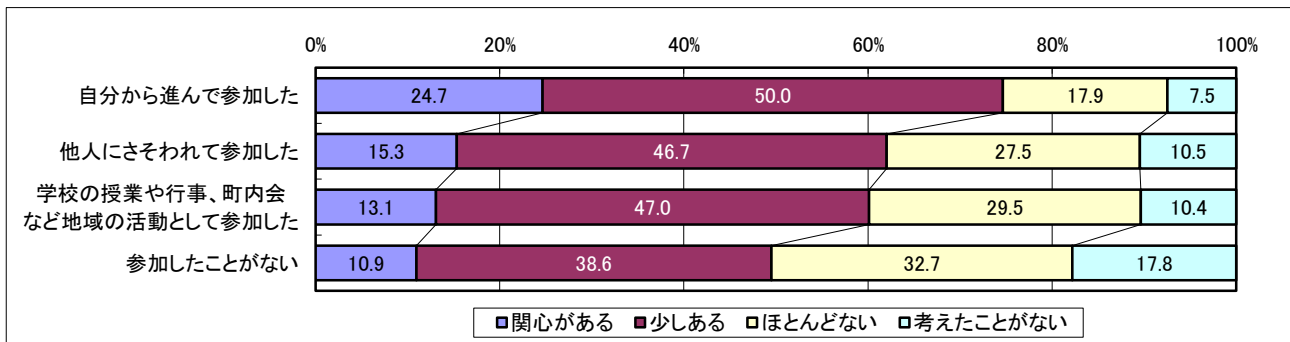
④「道路、公園、海岸等の清掃活動」の経験のある者



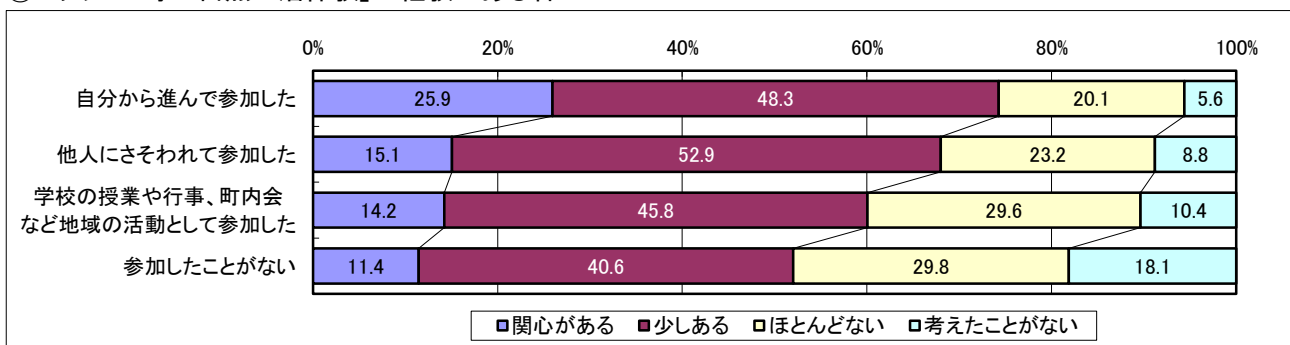
⑤「古紙やアルミ缶等の回収・分別活動」の経験のある者



⑥「地域の伝統行事」への参加経験のある者



⑦「キャンプ等の自然生活体験」の経験のある者

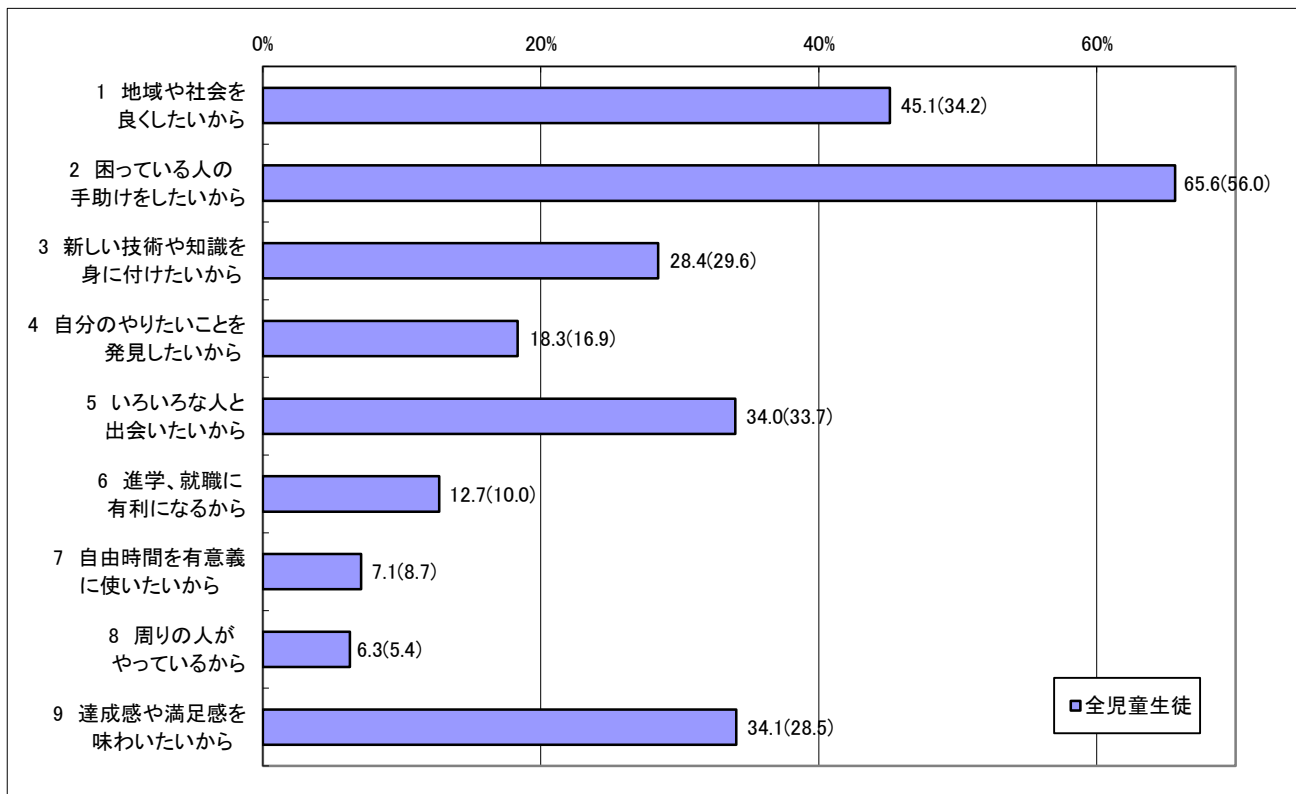


- 「他人にさそわれて参加した」「学校の授業や行事、町内会など地域の活動として参加した」と回答した児童生徒の方が、「参加したことがない」と回答した児童生徒よりも、ボランティアに興味が高い。「関心がある」「少しある」と回答した割合が高い。これは平成19年度と同様の傾向である。特に「自分から進んで参加した」児童生徒は、「老人ホームや病院等への訪問」「障害のある人たちとふれあう活動」「道路、公園、海岸等の清掃活動」「古紙やアルミ缶等の回収・分別活動」への関心が高い。
- 何らかの形で参加したことがある児童生徒ほど、関心が高い。

### 3 ボランティア活動への関心の理由【小学5年生…問27】【中学2年生…問28】【高校2年生…問29】

ボランティア活動に興味があるまたは「少しある」と答えた人に聞きます。それは、どのような気持ちからですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号を○でかこんでください。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 地域や社会を良くしたいから     | 2 困っている人の手助けをしたいから  |
| 3 新しい技術や知識を身に付けたいから | 4 自分のやりたいことを発見したいから |
| 5 いろいろな人と出会いたいから    | 6 進学、就職に有利になるから     |
| 7 自由時間を有意義に使いたいから   | 8 周りの人がやっているから      |
| 9 達成感や満足感を味わいたいから   |                     |



●上位2項目は、「困っている人の手助けをしたいから」(65.6%)、「地域や社会を良くしたいから」(45.1%)であり、これは平成19年度と同じ順序である。

#### 【経年比較】「ボランティア活動への関心の理由」の回答割合が高い項目

全児童生徒	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	困っている人の手助けをしたい (70.2%)	困っている人の手助けをしたい (56.0%)	困っている人の手助けをしたい (65.6%)
2	いろいろな人と出会いたい (45.0%)	地域や社会をよくしたい (34.2%)	地域や社会をよくしたい (45.1%)	
3	新しい技術や知識を身に付けたい (30.8%)	いろいろな人と出会いたい (33.7%)	達成感や満足感を味わいたい (34.1%)	

●この10年の経年比較を見ると、「困っている人の手助けをしたい」が年度によらず1位である。また、「地域や社会をよくしたい」「達成感や満足感を味わいたい」が、それぞれ順位を上げている。

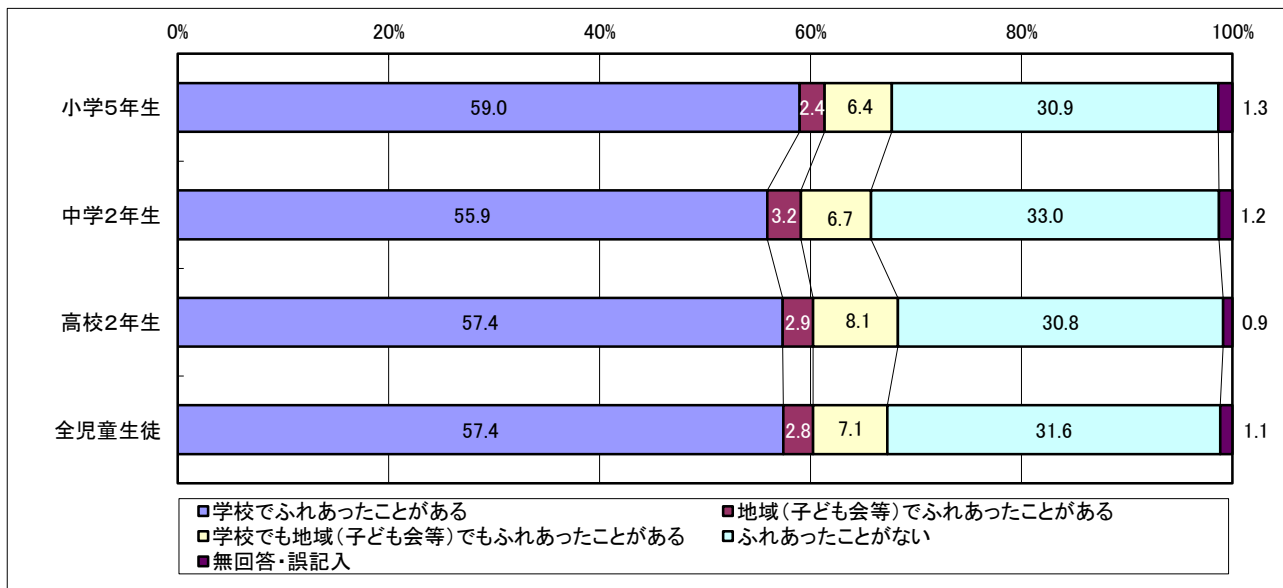


#### 4 特別支援学級や特別支援学校に通う子どもたちとのふれあい（新規項目）

【小学5年生…問28】【中学2年生…問29】【高校2年生…問30】

あなたはこれまで、特別支援学級や特別支援学校に通う児童生徒とふれあったことがありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで、番号を○でかこんでください。

- 1 学校でふれあったことがある      2 地域（子ども会等）でふれあったことがある  
3 学校でも地域（子ども会等）でもふれあったことがある      4 ふれあったことがない

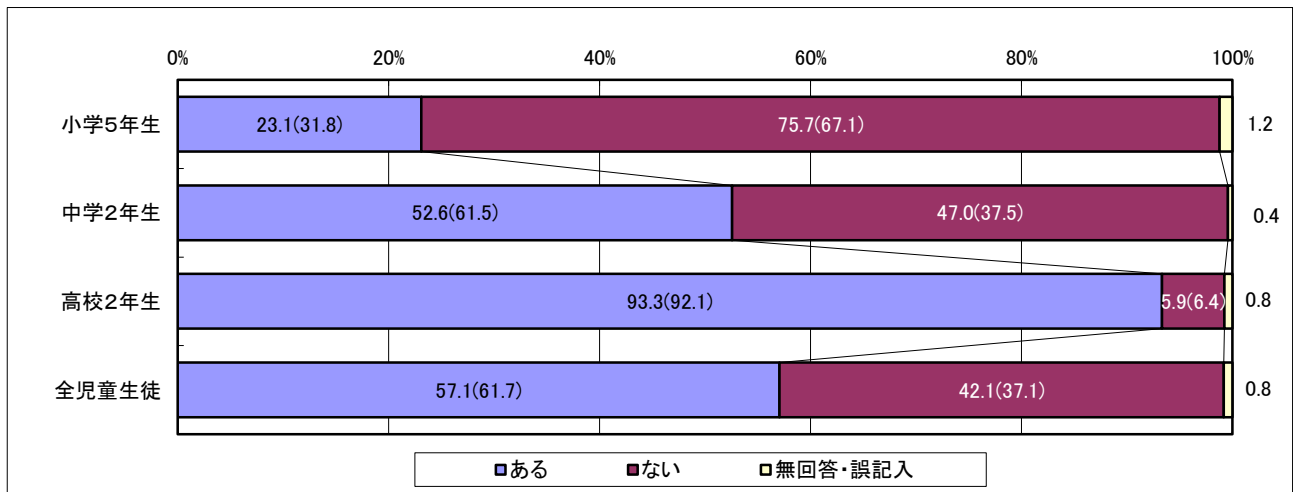


- 全児童生徒を見ると「学校でふれあったことがある」「地域でふれあったことがある」「学校と地域でふれあったことがある」と回答した割合は67.3%である。
- 校種別による差は、ほとんどない。
- 「ふれあったことがある」と回答した児童生徒は、ほとんど「学校でふれあったことがある」を回答している。

5 メールのやりとり 【小学5年生…問22】 【中学2年生…問22】 【高校2年生…問22】

あなたは、だれかとメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号を○でかこんでください。  
1 ある 2 ない

※高2は平成14年度から調査。小5、中2は平成19年度から調査。

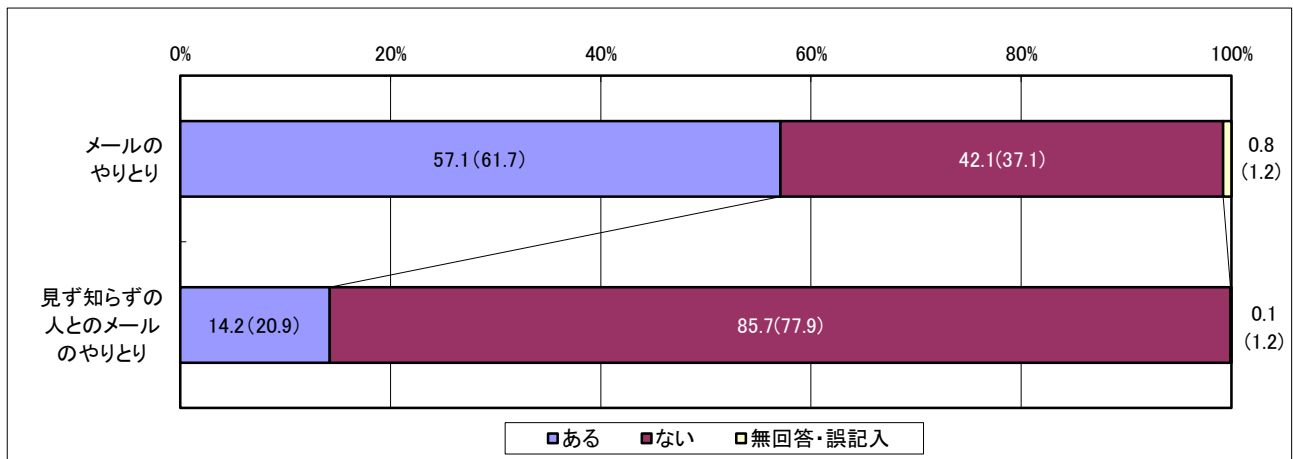


●「メールのやりとりの経験がある」と回答した割合は、全児童生徒の57.1%であり、学年が上がるにつれて高くなっている(小5 23.1%、中2 52.6%、高2 93.3%)。平成19年度と比較すると、高2は1.2ポイントの増加であるが、小5、中2はそれぞれ8.7ポイント、8.9ポイント減少している。

6 見ず知らずの人とのメール 【小学5年生…問23】 【中学2年生…問23】 【高校2年生…問23】

問22で「ある」と答えた人に聞きます。あなたは、見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで番号を答えてください。  
1 ある 2 ない

※高2は平成14年度から調査。小5、中2は平成19年度から調査。



●「見ず知らずの人とメールのやりとりをしたことがある」と回答しているのは、全児童生徒の14.2%である。平成19年度と比較すると6.7ポイント減少している。

【経年比較】「メールの経験あり」

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生			31.8%	23.1%
中学2年生			61.5%	52.6%
高校2年生		73.2%	92.1%	93.3%

【経年比較】「見ず知らずの人とのメール経験あり」

対象	年度	H14	H19	H24
小学5年生			2.1%	0.5%
中学2年生			11.4%	9.2%
高校2年生		42.9%	49.8%	31.7%

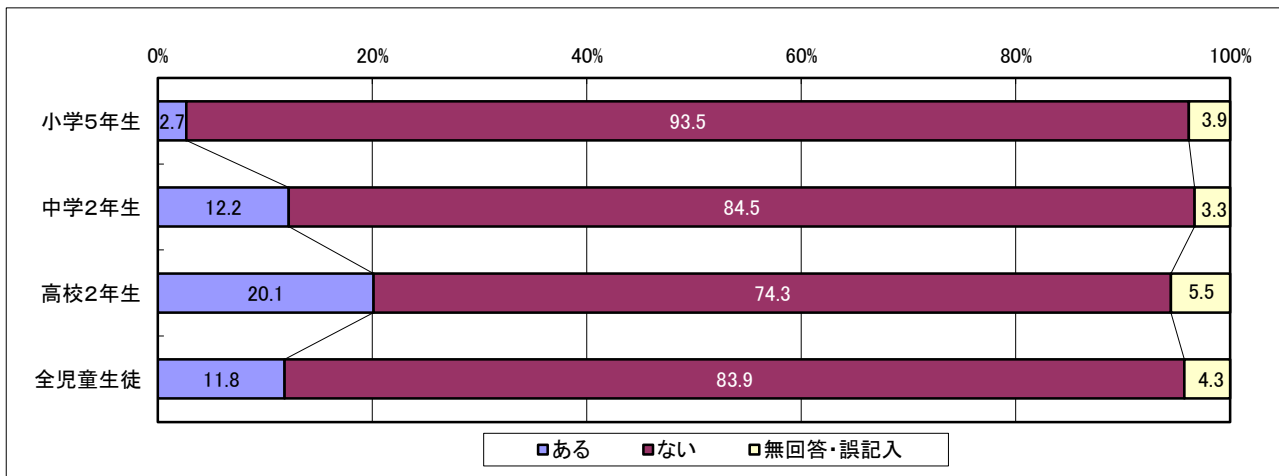
●「見ず知らずの人とのメールのやりとりをしたことがある」児童生徒は、小5が0.5%、中2で9.2%、高2で31.7%である。この5年間で、小学生は1.6ポイント、中学生は2.2ポイント、高校生は18.1ポイント減少している。

7 メールやインターネットで嫌なことや怖いことにあった経験（新規項目）

【小学5年生…問22・問24】【中学2年生…問22・問24】【高校2年生…問22・問24】

問22の「ある」「ない」にかかわらず答えてください。あなたは、メールやインターネットで嫌なことや怖いことにあったことがありますか。次の中からあてはまるものを選んで、番号を○でかこんでください

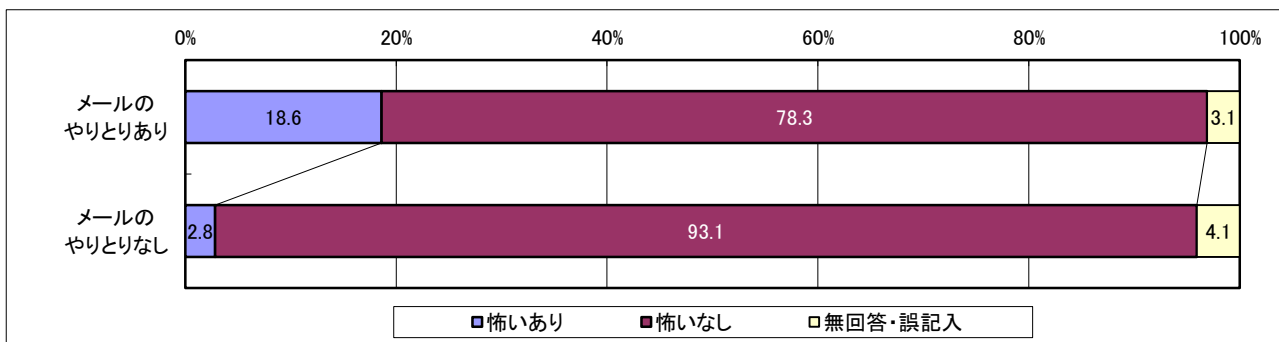
1 ある 2 ない



●全児童生徒のうち、11.8%が「メールやインターネットで嫌なことや怖いことにあった経験がある」と回答しており、学年が上がるにつれて多くなっている（小5 2.7%、中2 12.2%、高2 20.1%）。

【クロス集計】「メールのやりとりの経験がある」と「メールやインターネットで嫌なことや怖いことにあった経験がある」

【小学5年生…問22・問24】【中学2年生…問22・問24】【高校2年生…問22・問24】



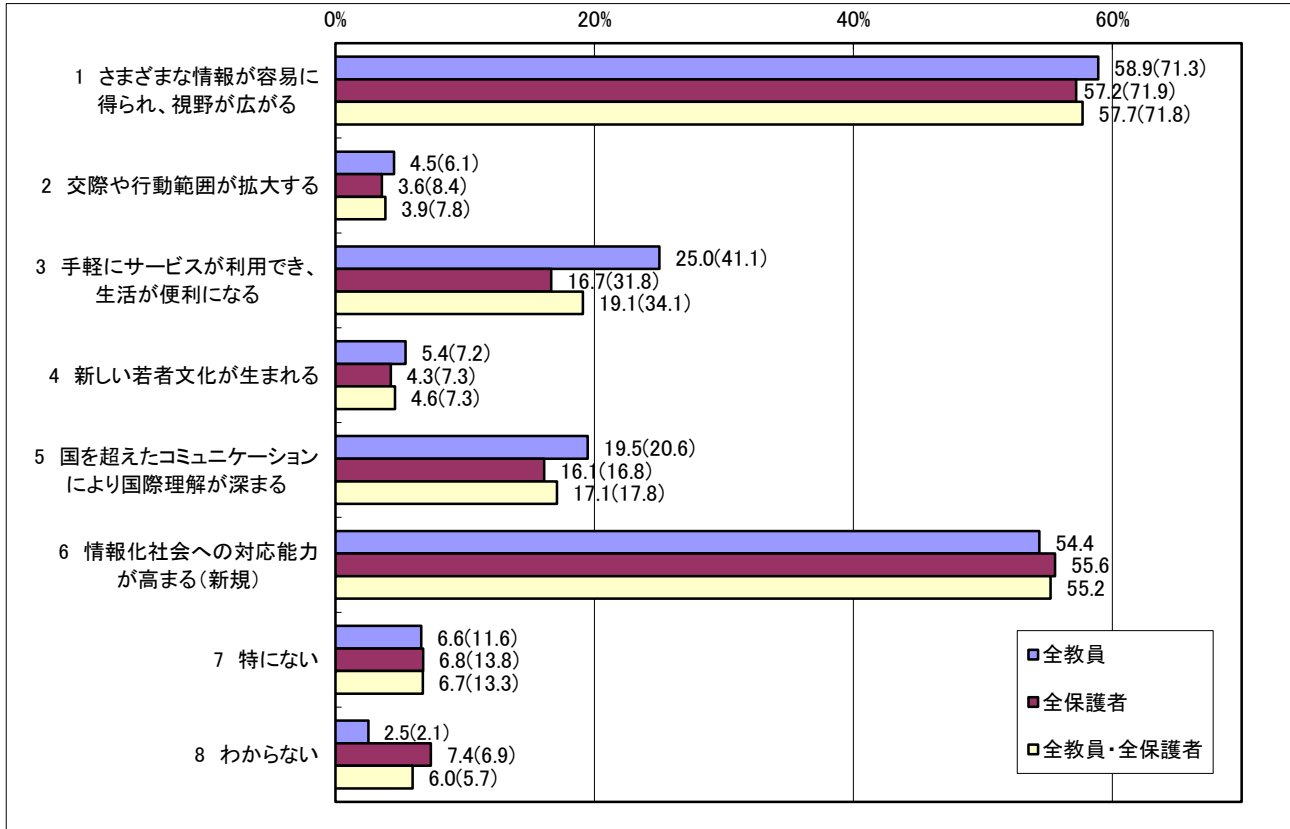
●「メールやインターネットで嫌なことや怖いことにあった経験がある」と回答した児童生徒は、「メールのやりとりの経験」の有無で、6倍以上の違いがある。

## 8 情報の利点 【教員…問20】 【保護者…問27】

情報機器や情報サービスの普及・使用により青少年にプラスとなることは何であると思いますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- |                             |                   |
|-----------------------------|-------------------|
| 1 さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる     | 2 交際や行動範囲が拡大する    |
| 3 手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる     | 4 新しい若者文化が生まれる    |
| 5 国を超えたコミュニケーションにより国際理解が深まる | 6 情報化社会への対応能力が高まる |
| 7 特にない                      | 8 わからない           |

※「情報化社会への対応能力が高まる」は新設。



●全教員・全保護者の回答の割合が高い順に、「さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる」(57.7%)、「情報化社会への対応能力が高まる」(55.2%)である。

### 【経年比較】「情報の利点」の回答割合が高い項目

全教員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (79.3%)	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (71.3%)	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (58.9%)
2	国を超えたコミュニケーションにより国際理解が深まる (43.1%)	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (41.1%)	情報化社会への対応能力が高まる (54.4%)	
3	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (27.4%)	国を超えたコミュニケーションにより国際理解が深まる (20.6%)	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (25.0%)	

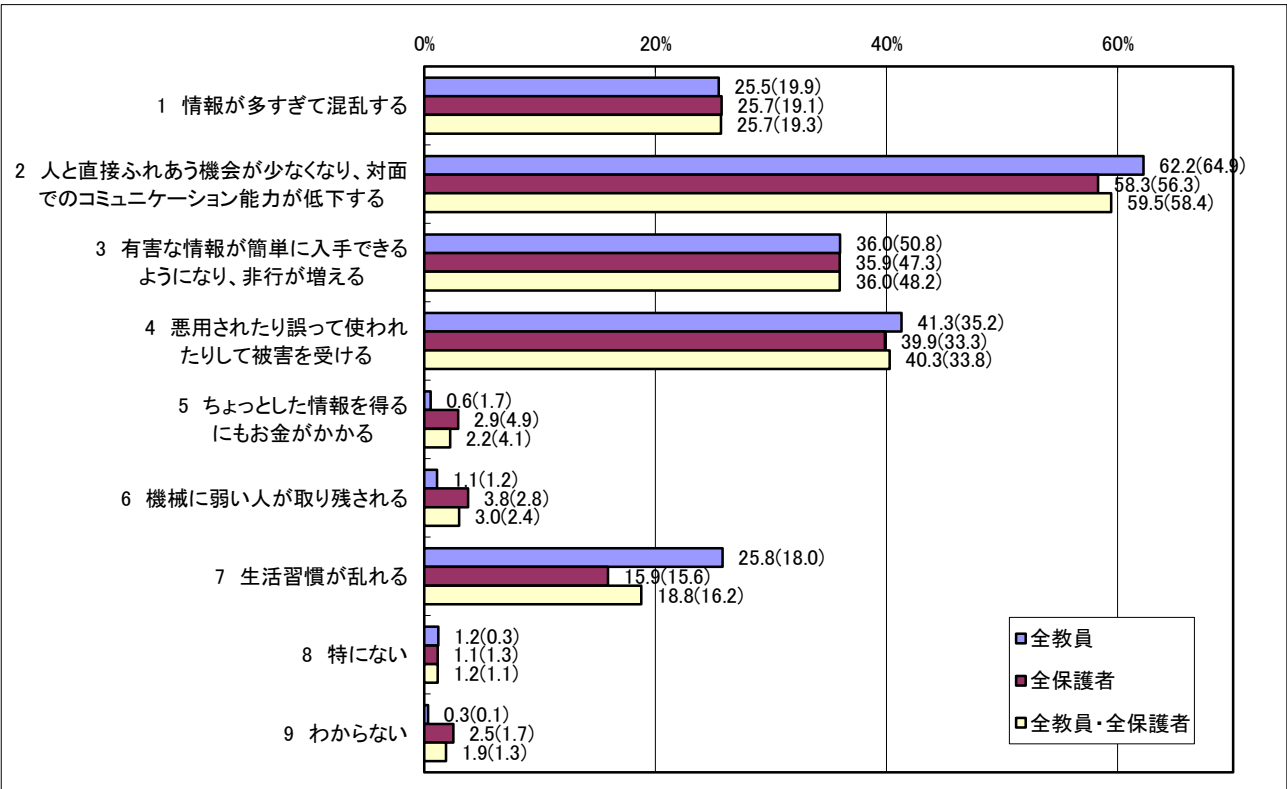
全保護者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (79.5%)	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (71.9%)	さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる (57.2%)
2	国を超えたコミュニケーションにより国際理解が深まる (40.2%)	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (31.8%)	情報化社会への対応能力が高まる (55.6%)	
3	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (22.3%)	国を超えたコミュニケーションにより国際理解が深まる (16.8%)	手軽にサービスが利用でき、生活が便利になる (16.7%)	

●この10年の経年比較を見ると、年度や教員、保護者の別によらず1位は「さまざまな情報が容易に得られ、視野が広がる」である。また、それぞれの年度の上位3項目の内容と順位は教員と保護者で同じである。

9 情報の弊害 【教員…問21】 【保護者…問28】

情報機器や情報サービスの普及・使用により青少年にマイナスとなることは何であると思いますか。次の中からあてはまるものを二つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- 1 情報が多すぎて混乱する
- 2 人と直接ふれあう機会が少なくなり、対面でのコミュニケーション能力が低下する
- 3 有害な情報が簡単に入手できるようになり、非行が増える
- 4 悪用されたり誤って使われたりして被害を受ける
- 5 ちょっとした情報を得るにもお金がかかる
- 6 機械に弱い人が取り残される
- 7 生活習慣が乱れる
- 8 特にない
- 9 わからない



●全教員・全保護者の回答が高い順に、「コミュニケーション能力の低下」(59.5%)、「悪用され被害を受ける」(40.3%)、「有害な情報、非行が増える」(36.0%)である。平成19年度と比較すると2位と3位が逆転している。

【経年比較】「情報の弊害」の回答割合が高い項目

全教員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	コミュニケーション能力の低下 (68.0%)	コミュニケーション能力の低下 (64.9%)	コミュニケーション能力の低下 (62.2%)
2	悪用され被害を受ける (48.3%)	有害な情報、非行が増える (50.8%)	悪用され被害を受ける (41.3%)	
3	有害な情報、非行が増える (44.7%)	悪用され被害を受ける (35.2%)	有害な情報、非行が増える (36.0%)	

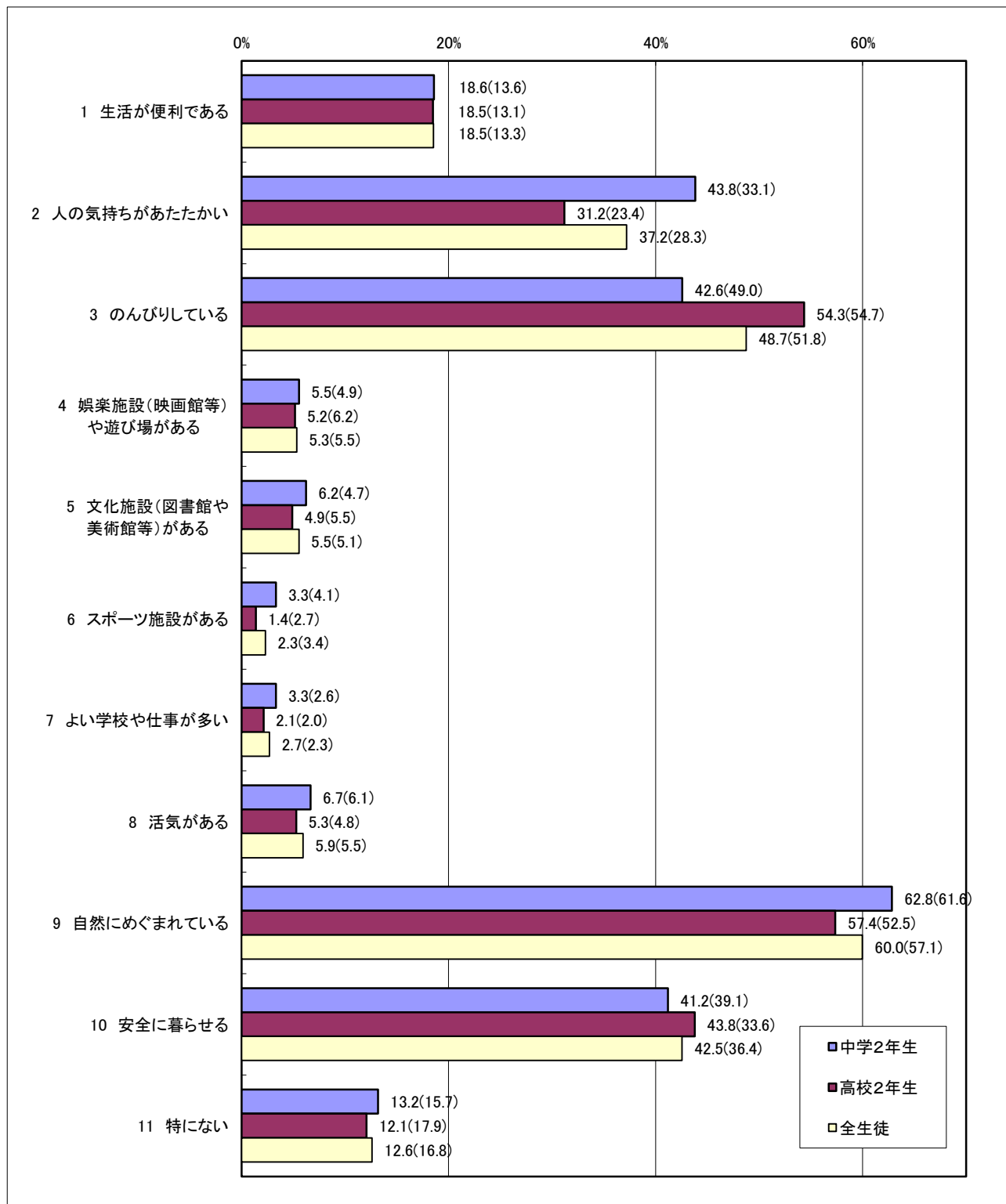
全保護者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	コミュニケーション能力の低下 (62.3%)	コミュニケーション能力の低下 (56.3%)	コミュニケーション能力の低下 (58.3%)
2	有害な情報、非行が増える (46.3%)	有害な情報、非行が増える (47.3%)	悪用され被害を受ける (39.9%)	
3	悪用され被害を受ける (39.6%)	悪用され被害を受ける (33.3%)	有害な情報、非行が増える (35.9%)	

●この10年の経年比較を見ると、年度や教員、保護者の別によらず1位は「コミュニケーション能力の低下」であり、上位3項目の内容は同じである。

10 あなたの町が好きですか 【中学2年生…問25】 【高校2年生…問25】

あなたは、今住んでいる市や町のどういうところが好きですか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで、番号を○でかこんでください。

- |                     |                     |              |
|---------------------|---------------------|--------------|
| 1 生活が便利である          | 2 人の気持ちがあたたかい       | 3 のんびりしている   |
| 4 娯楽施設（映画館等）や遊び場がある | 5 文化施設（図書館や美術館等）がある | 6 スポーツ施設がある  |
| 7 よい学校や仕事が多い        | 8 活気がある             | 9 自然にめぐまれている |
| 10 安全に暮らせる          | 11 特にない             |              |



●全生徒で回答の割合が高い順に、「自然にめぐまれている」(60.0%)、「のんびりしている」(48.7%)、「安全に暮らせる」(42.5%)、「人の気持ちがあたたかい」(37.2%)である。この順序は平成19年度と同じである。

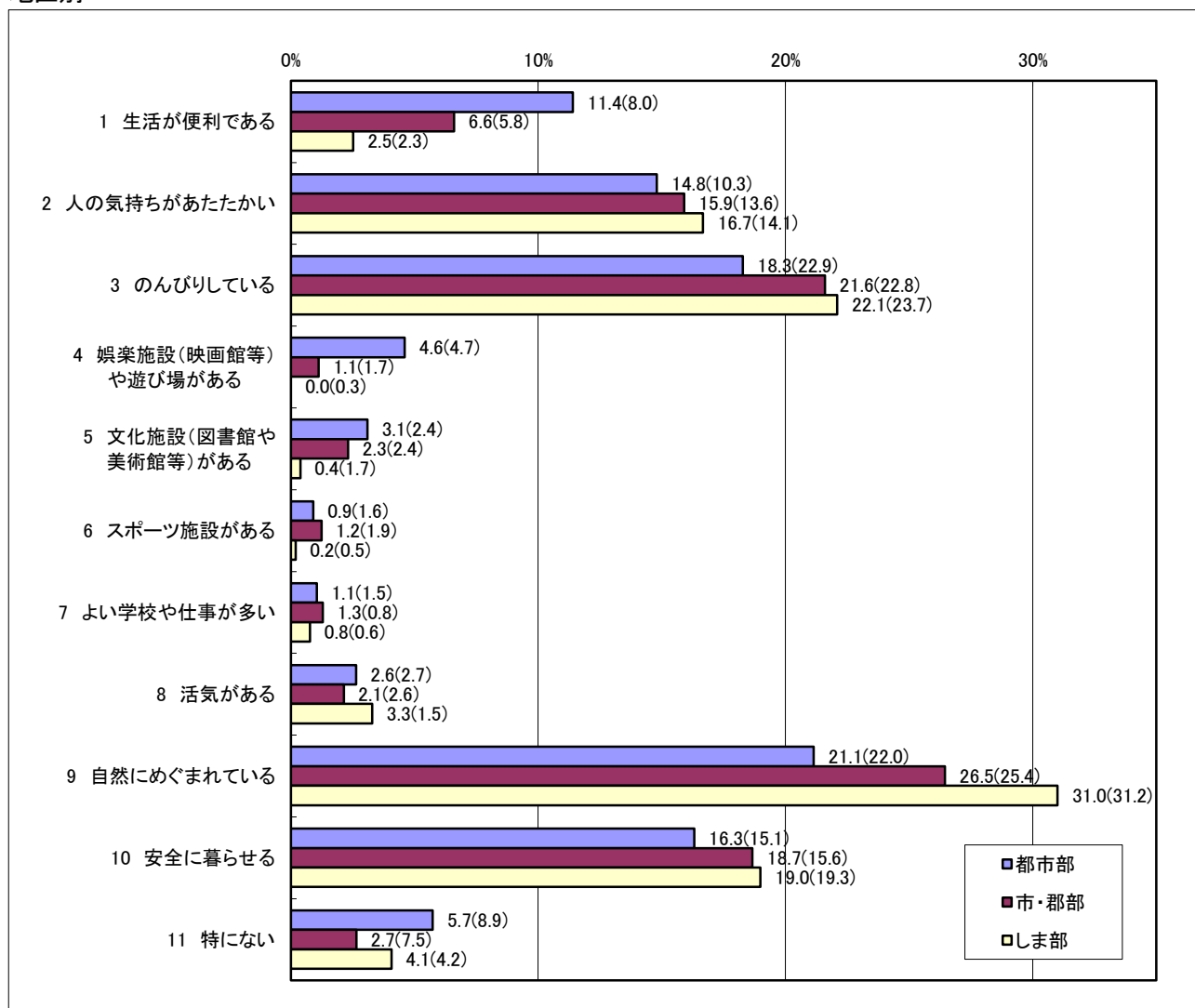
【経年比較】「あなたの町が好きですか」の割合が高い項目

中学2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	自然にめぐまれている (62.5%)	自然にめぐまれている (61.6%)	自然にめぐまれている (62.8%)
	2	のんびりしている (49.5%)	のんびりしている (49.0%)	人の気持ちがあたたかい (43.8%)
	3	安全に暮らせる (38.5%)	安全に暮らせる (39.1%)	のんびりしている (42.6%)

高校2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	のんびりしている (60.8%)	のんびりしている (54.7%)	自然にめぐまれている (57.4%)
	2	自然にめぐまれている (58.9%)	自然にめぐまれている (52.5%)	のんびりしている (54.3%)
	3	安全に暮らせる (45.6%)	安全に暮らせる (33.6%)	安全に暮らせる (43.8%)

●この10年の経年比較を見ると、平成24年度に、中2では「人の気持ちがあたたかい」が2位に、高2では「自然にめぐまれている」が1位にそれぞれ上がっている。

地区別

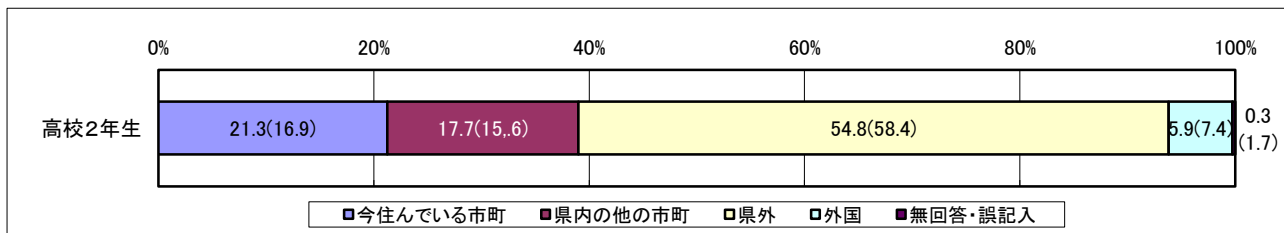


●いずれの地区も上位3項目は「自然にめぐまれている」「のんびりしている」「安全に暮らせる」の順である。これは平成19年度と同じである。

## 1.1 どこで暮らしたいか 【高校2年生…問26】

あなたは社会人になったとき、どこで暮らしたいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで、番号を○でかこんでください。

- 1 今住んでいる市町      2 県内の他の市町      3 県外      4 外国



- 回答の割合が高い順に、「県外」(54.8%)、「今住んでいる市町」(21.3%)、「県内の他の市町」(17.7%)、「外国」(5.9%)である。この順序は平成19年度と同じである。
- 平成19年度と比較して、「県外」と回答した割合が3.6ポイント減少し、「今住んでいる市町」は4.4ポイント、「県内の他の市町」は2.1ポイント増加している。

### 【経年比較】「どこで暮らしたいか」の回答割合が高い項目

高校2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	県外 (61.8%)	県外 (58.4%)	県外 (54.8%)
	2	今住んでいる市町 (14.8%)	今住んでいる市町 (16.9%)	今住んでいる市町 (21.3%)
	3	県内の他の市町 (12.4%)	県内の他の市町 (15.6%)	県内の他の市町 (17.7%)
	4	外国 (9.2%)	外国 (7.4%)	外国 (5.9%)

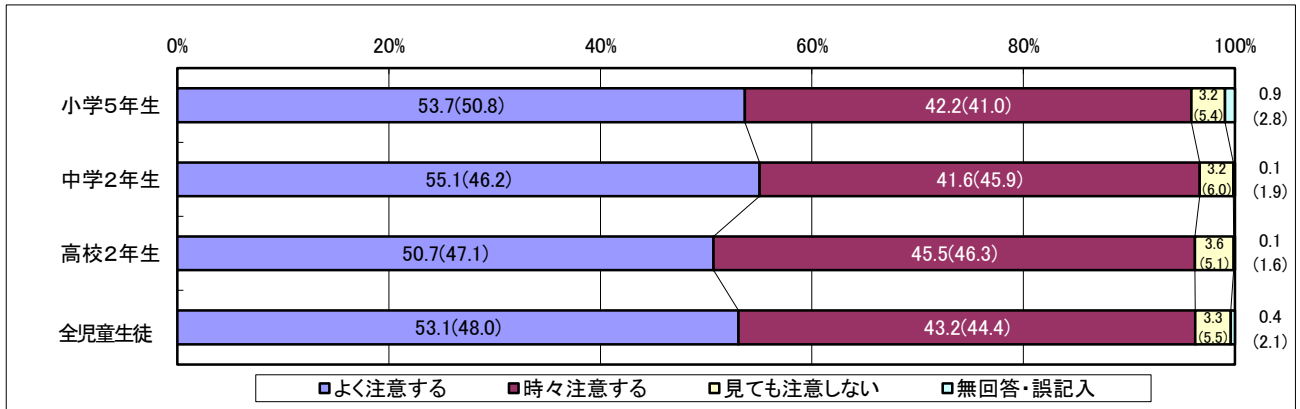
- この10年の経年比較を見ると、順位の変動はないが、「今住んでいる市町」「県内の他の市町」の割合は増加している。(「今住んでいる市町」 6.5ポイント増、「県内の他の市町」 5.3ポイント増)



12 大人は注意するか 【小学5年生…問31】 【中学2年生…問33】 【高校2年生…問34】

子どもが悪いことや迷惑をかけることをしたとき、まわりの大人は注意しますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで、番号を○でかこんでください。

- 1 よく注意する      2 時々注意する      3 見ても注意しない



- 「よく注意する」「時々注意する」と回答した割合は、小5 95.9%、中2 96.7%、高2 96.2%である。
- 平成19年度と比較して、「よく注意する」「時々注意する」と回答した割合が、全校種ともに増加している（小5 4.1ポイント増、中2 4.6ポイント増、高2 2.8ポイント増）。

【経年比較】「よく注意する」「時々注意する」と回答した割合

対象 \ 年度	平成14年度	平成19年度	平成24年度	10年前との比較
小学5年生	90.8%	91.8%	95.9%	+5.1
中学2年生	89.5%	92.1%	96.7%	+7.2
高校2年生	87.2%	93.4%	96.2%	+9.0
全児童生徒	89.1%	92.4%	96.3%	+7.2

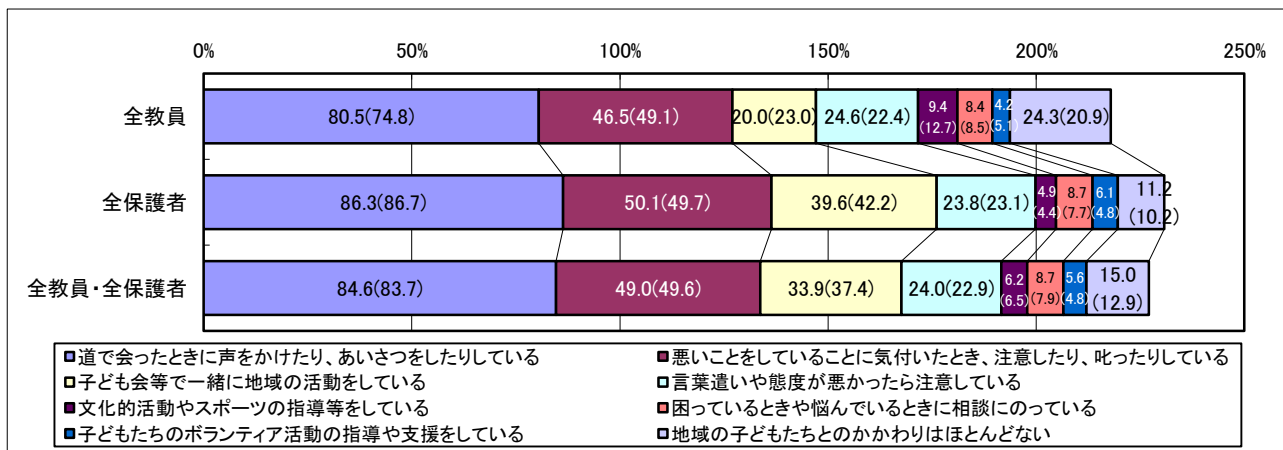
- この10年の経年比較を見ると、全校種ともに増加している。全児童生徒を見ると、この10年間で7.2ポイント増加している。

### 1.3 地域での子どもへの接し方 【教員…問12】 【保護者…問19】

あなたは、自分の住んでいる地域の子どもたちに対して、普段どのように接していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、番号を○で囲んでください。

- 1 道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている
- 2 悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている
- 3 子ども会等で一緒に地域の活動をしている
- 4 言葉遣いや態度が悪かったら注意している
- 5 文化的活動やスポーツの指導等をしている
- 6 困っているときや悩んでいるときに相談にのっている
- 7 子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている
- 8 地域の子どもたちとの関わりはほとんどない

※複数回答のため100%を超えている。



●全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている」(84.6%)、「悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている」(49.0%)、「子ども会等で一緒に地域の活動をしている」(33.9%)である。これは平成19年度と同じである。

#### 【経年比較】「地域での子どもへの接し方」の回答割合が高い項目

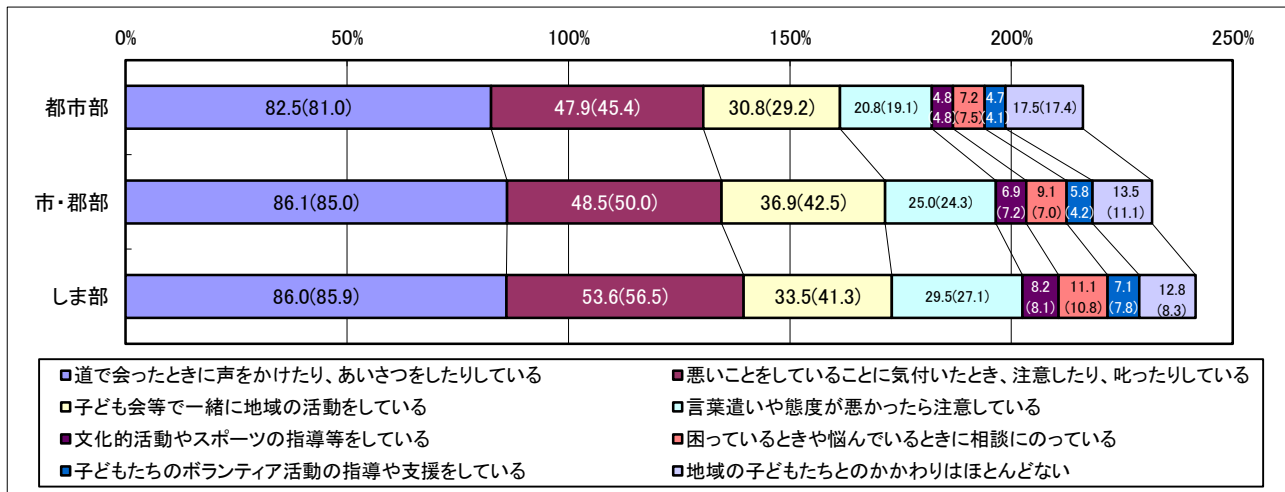
全教員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (69.2%)	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (74.8%)	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (80.5%)
2	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (48.6%)	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (49.1%)	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (46.5%)	
3	地域の子どもたちとのかかわりはほとんどない (32.0%)	子ども会等で一緒に地域の活動をしている (23.0%)	言葉遣いや態度が悪かったら注意している (24.6%)	

全保護者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (86.7%)	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (86.7%)	道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている (86.3%)
2	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (55.3%)	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (49.7%)	悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている (50.1%)	
3	子ども会等で一緒に地域の活動をしている (42.4%)	子ども会等で一緒に地域の活動をしている (42.2%)	子ども会等で一緒に地域の活動をしている (39.6%)	

●この10年の経年比較を見ると、全教員では、年度によらず上位2項目の内容と順位は同じであり、「言葉遣いや態度が悪かったら注意している」の順位が平成24年度に3位に上がっている。全保護者は、年度によらず上位3項目の内容と順位は同じである。

### 地区別(全教員・全保護者)

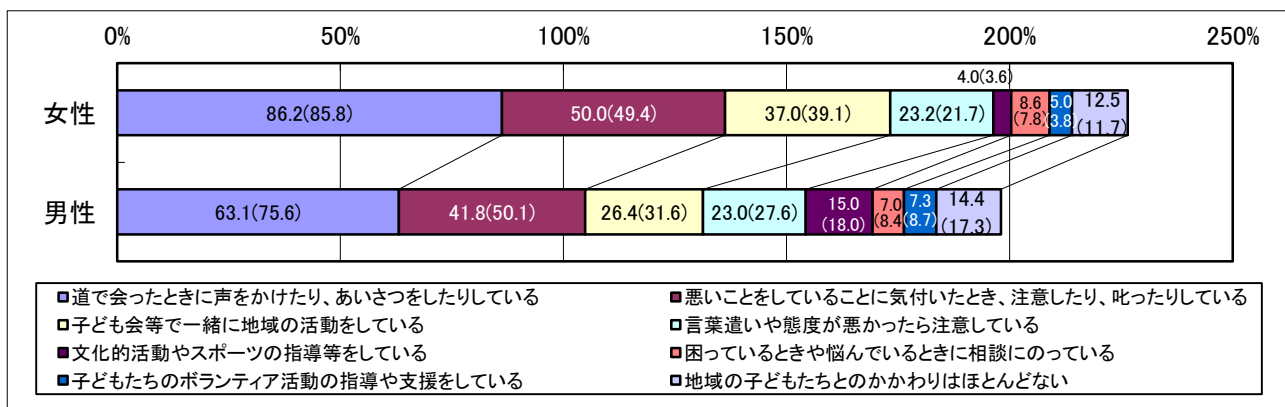
※複数回答のため100%を超えている。



●いずれの地区も回答した割合が高い順に、「道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている」「悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている」「子ども会等と一緒に地域の活動をしている」である。この順序は平成19年度と同じである。

### 男女別(全教員・全保護者)

※複数回答のため100%を超えている。

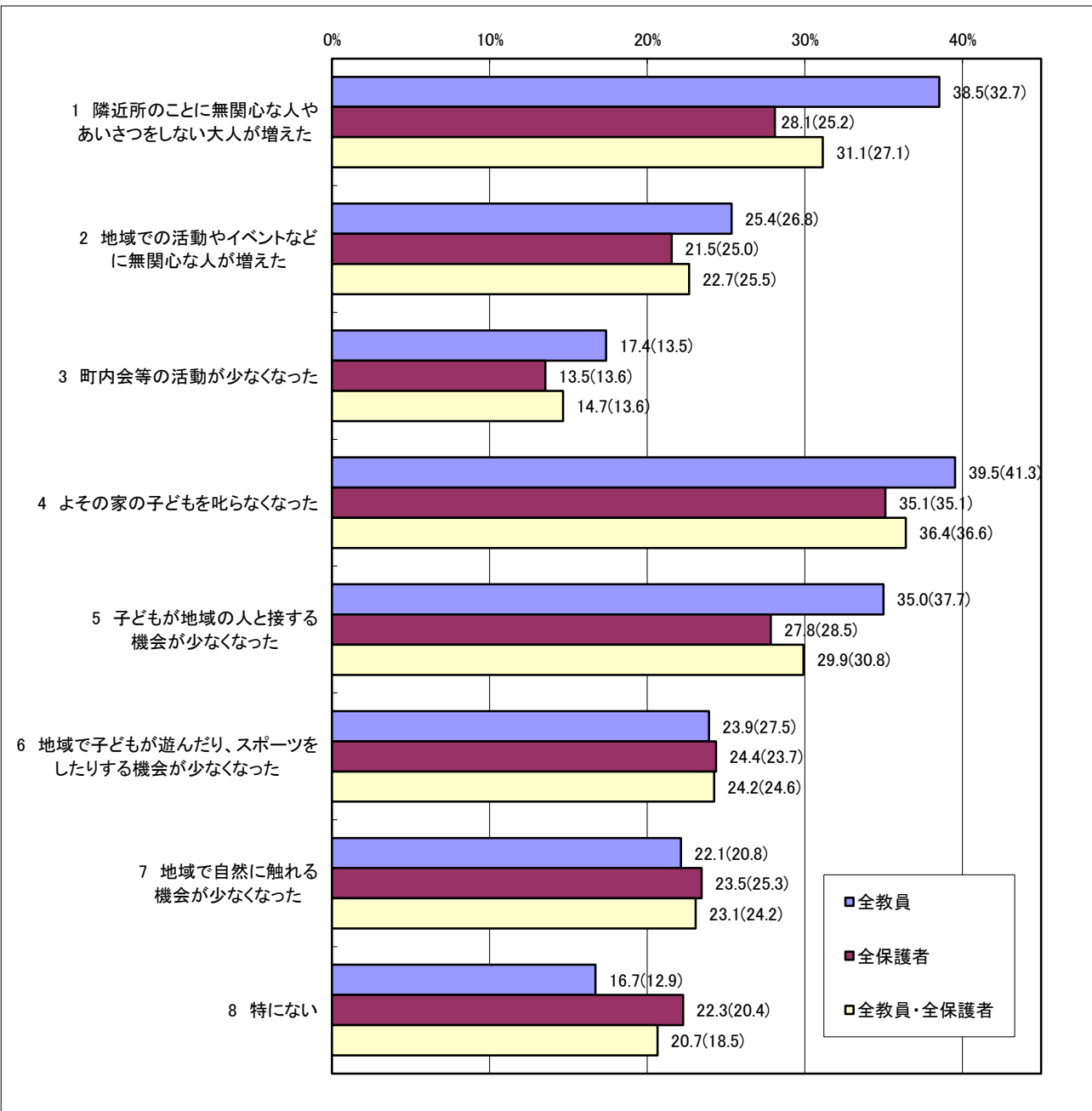


- 男女ともに回答した割合が高い順に、「道で会ったときに声をかけたり、あいさつしたりしている」「悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている」である。平成19年度と比較すると、女性はこれらの項目で、ほぼ同じであるが、男性はそれぞれ12.5ポイント、8.3ポイント減少している。
- 女性が男性よりも割合が高いのは、「道で会ったときに声をかけたり、あいさつをしたりしている」(女性86.2%、男性63.1%)、「悪いことをしていることに気付いたとき、注意したり、叱ったりしている」(女性50.0%、男性41.8%)、「子ども会等と一緒に地域の活動をしている」(女性37.0%、男性26.4%)、「言葉遣いや態度が悪かったら注意している」(女性23.2%、男性23.0%)、「困っているときや悩んでいるときに相談にのっている」(女性8.6%、男性7.0%)である。
- 男性が女性よりも割合が高いのは、「文化的活動やスポーツの指導等をしている」(女性4.0%、男性15.0%)、「子どもたちのボランティア活動の指導や支援をしている」(女性5.0%、男性7.3%)である。

14 地域の問題 【教員…問13】 【保護者…問20】

自分の住んでいる地域について問題であると思う点がありますか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- 1 隣近所のことに無関心な人やあいさつをしない大人が増えた
- 2 地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた
- 3 町内会等の活動が少なくなった
- 4 よその家の子どもを叱らなくなった
- 5 子どもが地域の人と接する機会が少なくなった
- 6 地域で子どもが遊んだり、スポーツをしたりする機会が少なくなった
- 7 地域で自然に触れる機会が少なくなった
- 8 特にない



- 全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「よその家の子どもを叱らなくなった」(36.4%)、「隣近所のことに無関心な人やあいさつをしない大人が増えた」(31.1%)、「子どもが地域の人と接する機会が少なくなった」(29.9%)である。
- 平成19年度と比較すると、「隣近所のことに無関心な人やあいさつをしない人が増えた」が増加している(全教員 5.8ポイント、全保護者 2.9ポイント)。一方、「地域での活動やイベントなどに無関心な人が増えた」は減少している(全教員 1.4ポイント、全保護者 3.5ポイント)。

【経年比較】「地域の問題」の回答割合が高い項目

全 教 員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	よその家の子どもを叱らなくなった (57.5%)	よその家の子どもを叱らなくなった (41.3%)	よその家の子どもを叱らなくなった (39.5%)
	2	隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた (47.1%)	子どもが地域の人と接する機会が少なくなった (37.7%)	隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた (38.5%)
	3	子どもが地域の人と接する機会が少なくなった (40.5%)	隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた (32.7%)	子どもが地域の人と接する機会が少なくなった (35.0%)

全 保 護 者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	よその家の子どもを叱らなくなった (44.6%)	よその家の子どもを叱らなくなった (35.1%)	よその家の子どもを叱らなくなった (35.1%)
	2	隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた (30.2%)	子どもが地域の人と接する機会が少なくなった (28.5%)	隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた (28.1%)
	3	地域で子どもが遊んだり、スポーツをしたりする機会が少なくなった (28.2%)	地域で自然に触れる機会が少なくなった (25.3%)	子どもが地域の人と接する機会が少なくなった (27.8%)

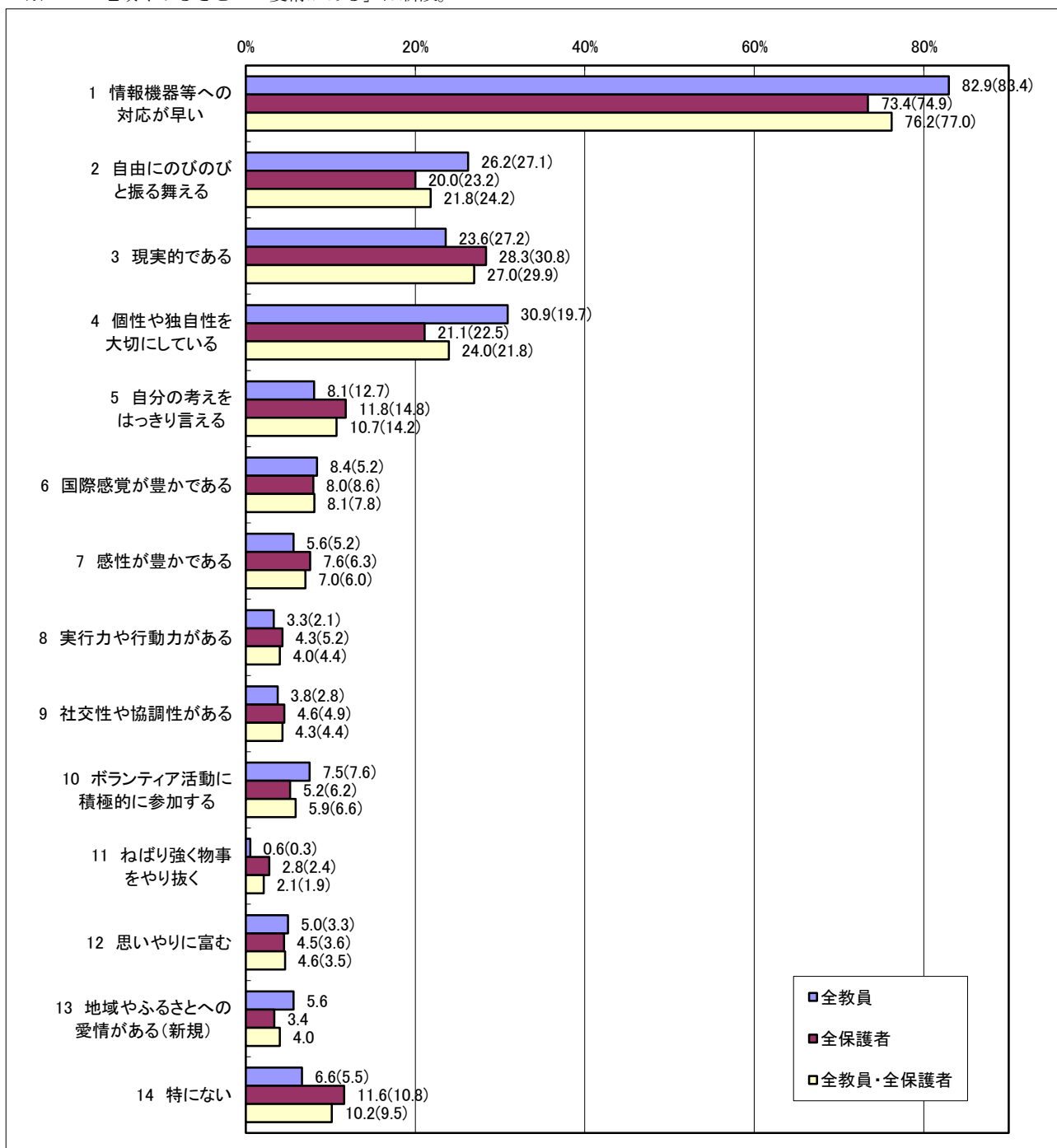
- この10年の経年比較を見ると、全教員、全保護者ともに「よその家の子どもを叱らなくなった」の割合が、年度によらず最も多い。また、「隣近所のことに関心な人やあいさつをしない大人が増えた」の回答も、全教員、全保護者ともに平成24年度に再び増えている。

### 15 現在の青少年の優れている点 【教員…問14】 【保護者…問21】

現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、優れている面をあげるとすればどのようなことであると思いますか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 情報機器等への対応が早い    | 2 自由にのびのびと振る舞える      |
| 3 現実的である          | 4 個性や独自性を大切にしている     |
| 5 自分の考えをはっきり言える   | 6 国際感覚が豊かである         |
| 7 感性が豊かである        | 8 実行力や行動力がある         |
| 9 社交性や協調性がある      | 10 ボランティア活動に積極的に参加する |
| 11 ねばり強く物事をやり抜く   | 12 思いやりに富む           |
| 13 地域やふるさとへの愛情がある | 14 特にない              |

※「13 地域やふるさとへの愛情がある」は新設。



●全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「情報機器等への対応が早い」(76.2%)、「現実的である」(27.0%)、「個性や独自性を大切にしている」(24.0%)である。

【経年比較】「青少年の優れている点」の回答割合が高い項目

全 教 員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	情報機器などへの対応が早い (80.6%)	情報機器などへの対応が早い (83.4%)	情報機器等への対応が早い (82.9%)
	2	自由にのびのびと振る舞える (36.1%)	現実的である (27.2%)	個性や独自性を大切にしている (30.9%)
	3	現実的である (29.6%)	自由にのびのびと振る舞える (27.1%)	自由にのびのびと振る舞える (26.2%)

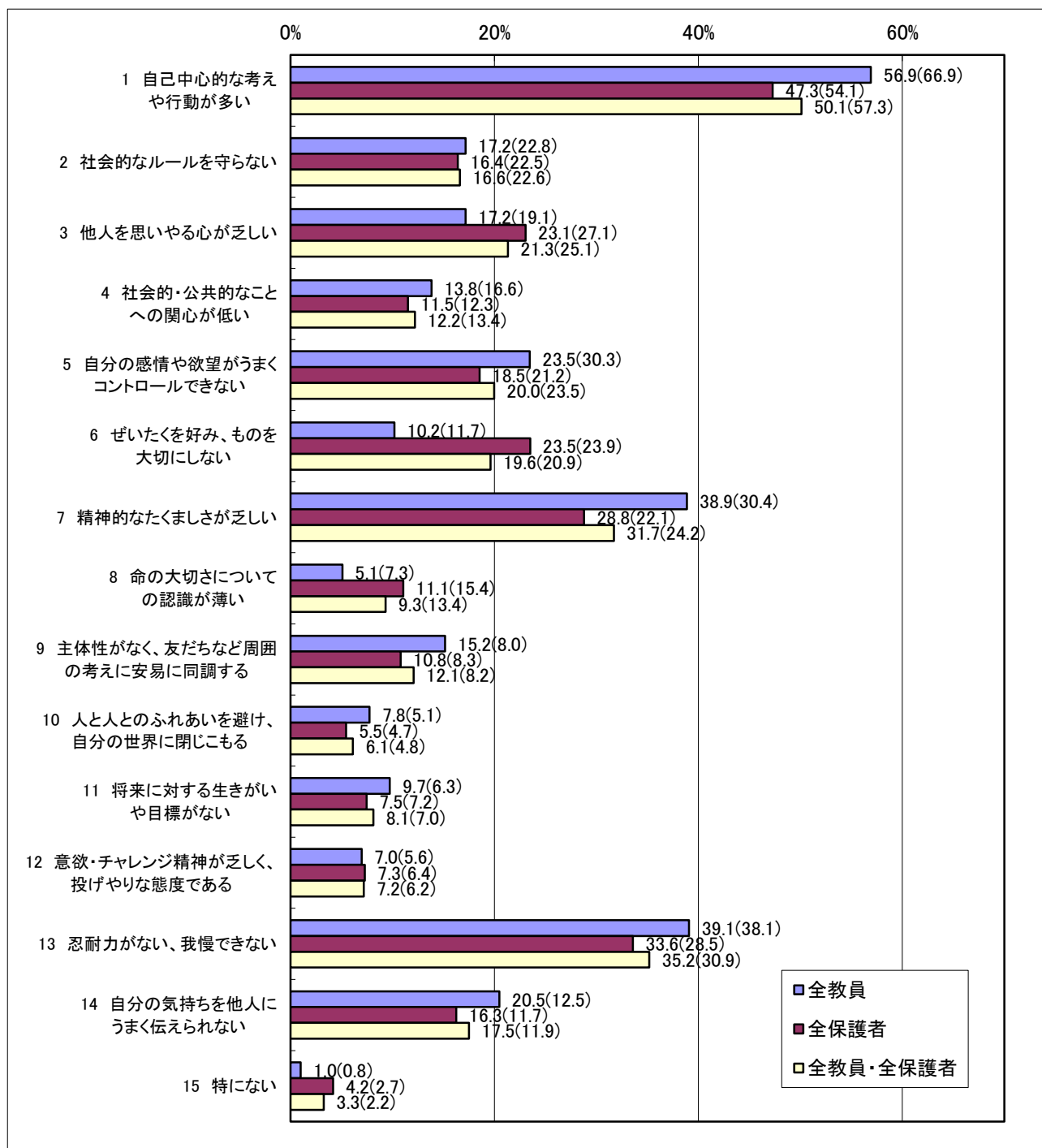
全 保 護 者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	情報機器などへの対応が早い (78.4%)	情報機器などへの対応が早い (74.9%)	情報機器等への対応が早い (73.4%)
	2	現実的である (39.0%)	現実的である (30.8%)	現実的である (28.3%)
	3	自由にのびのびと振る舞える (27.2%)	自由にのびのびと振る舞える (23.2%)	個性や独自性を大切にしている (21.1%)

- この10年の経年比較を見ると、全教員、全保護者ともに年度によらず「情報機器等への対応が早い」が1位になっている。
- 全教員、全保護者ともに、平成14、19年度は「情報機器等への対応が早い」、「自由にのびのびと振る舞える」、「現実的である」の3項目が上位を占めていたが、平成24年度は「個性や独自性を大切にしている」が上位3項目に入っている。

## 16 現在の青少年の憂慮すべき点 【教員…問15】 【保護者…問22】

現在の青少年の考え方や行動を身近に見て、憂慮すべき面をあげるとすればどのようなことであると思いますか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 自己中心的な考え方や行動が多い           | 2 社会的なルールを守らない               |
| 3 他人を思いやる心が乏しい              | 4 社会的・公共的なことへの関心が低い          |
| 5 自分の感情や欲望がうまくコントロールできない    | 6 ぜいたくを好み、ものを大切にしない          |
| 7 精神的なたくましが乏しい              | 8 命の大切さについての認識が薄い            |
| 9 主体性がなく、友だちなど周囲の考えに安易に同調する | 10 人と人とのふれあいを避け、自分の世界に閉じこもる  |
| 11 将来に対する生きがいや目標がない         | 12 意欲・チャレンジ精神が乏しく、投げやりな態度である |
| 13 忍耐力がない、我慢できない            | 14 自分の気持ちを他人にうまく伝えられない       |
| 15 特にない                     |                              |



●全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「自己中心的」(50.1%)、「忍耐力がない」(35.2%)、「精神的たくましが乏しい」(31.7%)、「思いやる心が乏しい」(21.3%)、「感情をコントロールできない」(20.0%)である。平成19年度と上位5項目は同じ内容である。



【経年比較】「現在の青少年の憂慮すべき点」の回答割合が高い項目

全 教 員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	自己中心的な考えや行動が多い (71.9%)	自己中心的な考えや行動が多い (66.9%)	自己中心的な考えや行動が多い (56.9%)
	2	忍耐力がない、我慢できない (42.0%)	忍耐力がない、我慢できない (38.1%)	忍耐力がない、我慢できない (39.1%)
	3	自分の感情や欲望がうまくコントロールできない (34.7%)	精神的なたくましさが乏しい (30.4%)	精神的なたくましさが乏しい (38.9%)

全 保 護 者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	自己中心的な考えや行動が多い (60.0%)	自己中心的な考えや行動が多い (54.1%)	自己中心的な考えや行動が多い (47.3%)
	2	忍耐力がない、我慢できない (33.9%)	忍耐力がない、我慢できない (28.5%)	忍耐力がない、我慢できない (33.6%)
	3	ぜいたくを好み、ものを大切にしない (27.8%)	他人を思いやる心が乏しい (27.1%)	精神的なたくましさが乏しい (28.8%)

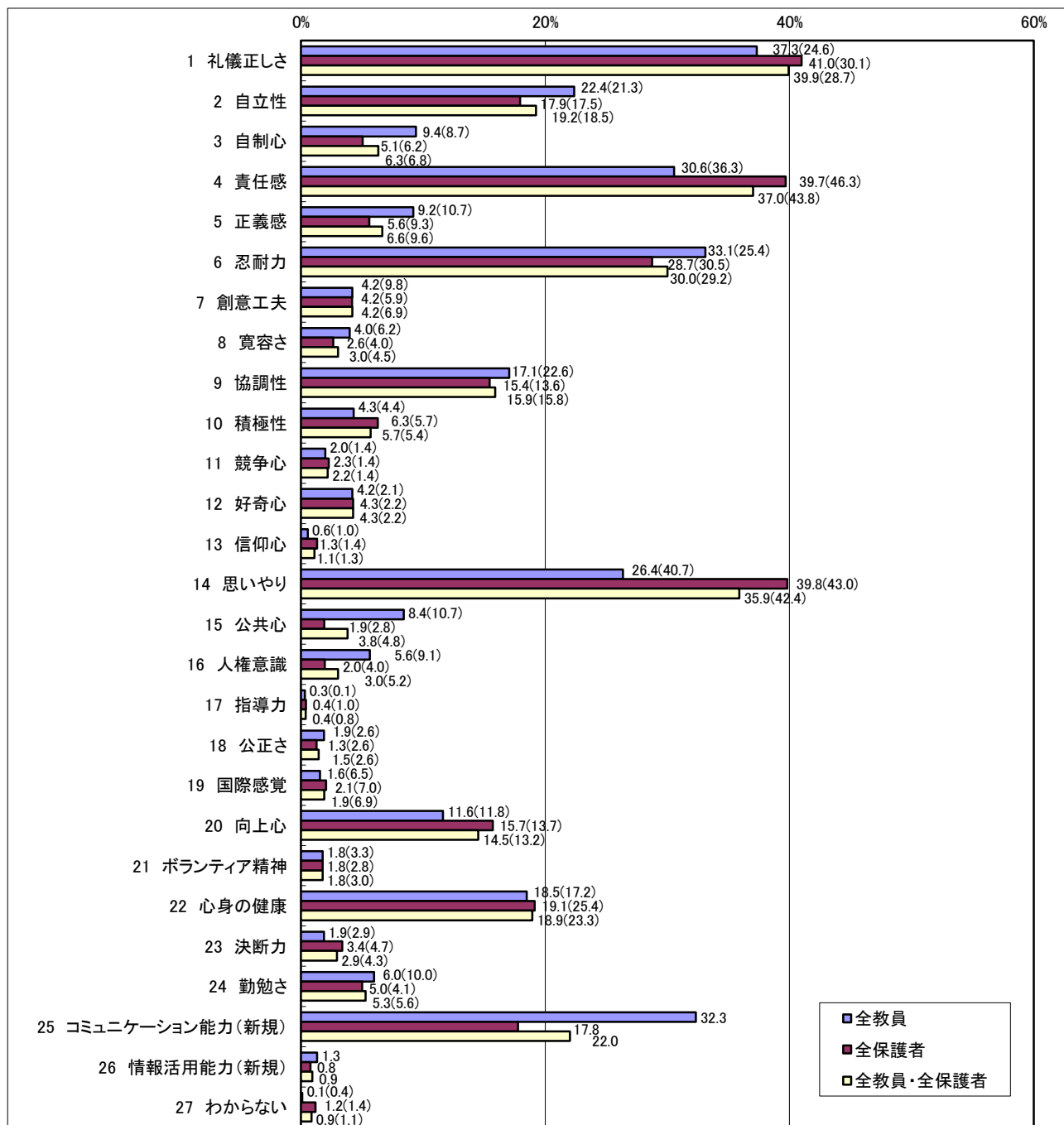
●この10年の経年比較を見ると、全教員、全保護者ともに年度によらず1位が「自己中心的な考えや行動が多い」、2位が「忍耐力がない、我慢ができない」である。

## 17 21世紀を担う青少年が身に付けるべき資質 【教員…問17】 【保護者…問24】

あなたは、青少年が身に付けるべき資質は何であると思いますか。次の中から特に大切であると思うものを三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- |                |           |          |         |        |
|----------------|-----------|----------|---------|--------|
| 1 礼儀正しさ        | 2 自立性     | 3 自制心    | 4 責任感   | 5 正義感  |
| 6 忍耐力          | 7 創意工夫    | 8 寛容さ    | 9 協調性   | 10 積極性 |
| 11 競争心         | 12 好奇心    | 13 信仰心   | 14 思いやり | 15 公共心 |
| 16 人権意識        | 17 指導力    | 18 公正さ   | 19 国際感覚 | 20 向上心 |
| 21 ボランティア精神    | 22 心身の健康  | 23 決断力   | 24 勤勉さ  |        |
| 25 コミュニケーション能力 | 26 情報活用能力 | 27 わからない |         |        |

※「25 コミュニケーション能力」「26 情報活用能力」は新設。



●全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「礼儀正しさ」(39.9%)、「責任感」(37.0%)、「思いやり」(35.9%)、「忍耐力」(30.0%)、「コミュニケーション能力」(22.0%)である。

●全教員・全保護者で、今回新たに付け加えた「コミュニケーション能力」「情報活用能力」を回答した割合は、それぞれ22.0%、0.9%である。

【経年比較】「21世紀を担う青少年が身に付けるべき資質」の回答割合が高い項目

全 教 員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	思いやり (32.9%)	思いやり (40.7%)	礼儀正しさ (37.3%)
	2	責任感 (30.5%)	責任感 (36.3%)	忍耐力 (33.1%)
	3	心身の健康 (26.5%)	忍耐力 (25.4%)	コミュニケーション能力 (32.3%)

全 保 護 者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	責任感 (46.0%)	責任感 (46.3%)	礼儀正しさ (41.0%)
	2	思いやり (39.4%)	思いやり (43.0%)	思いやり (39.8%)
	3	忍耐力 (28.6%)	忍耐力 (30.5%)	責任感 (39.7%)

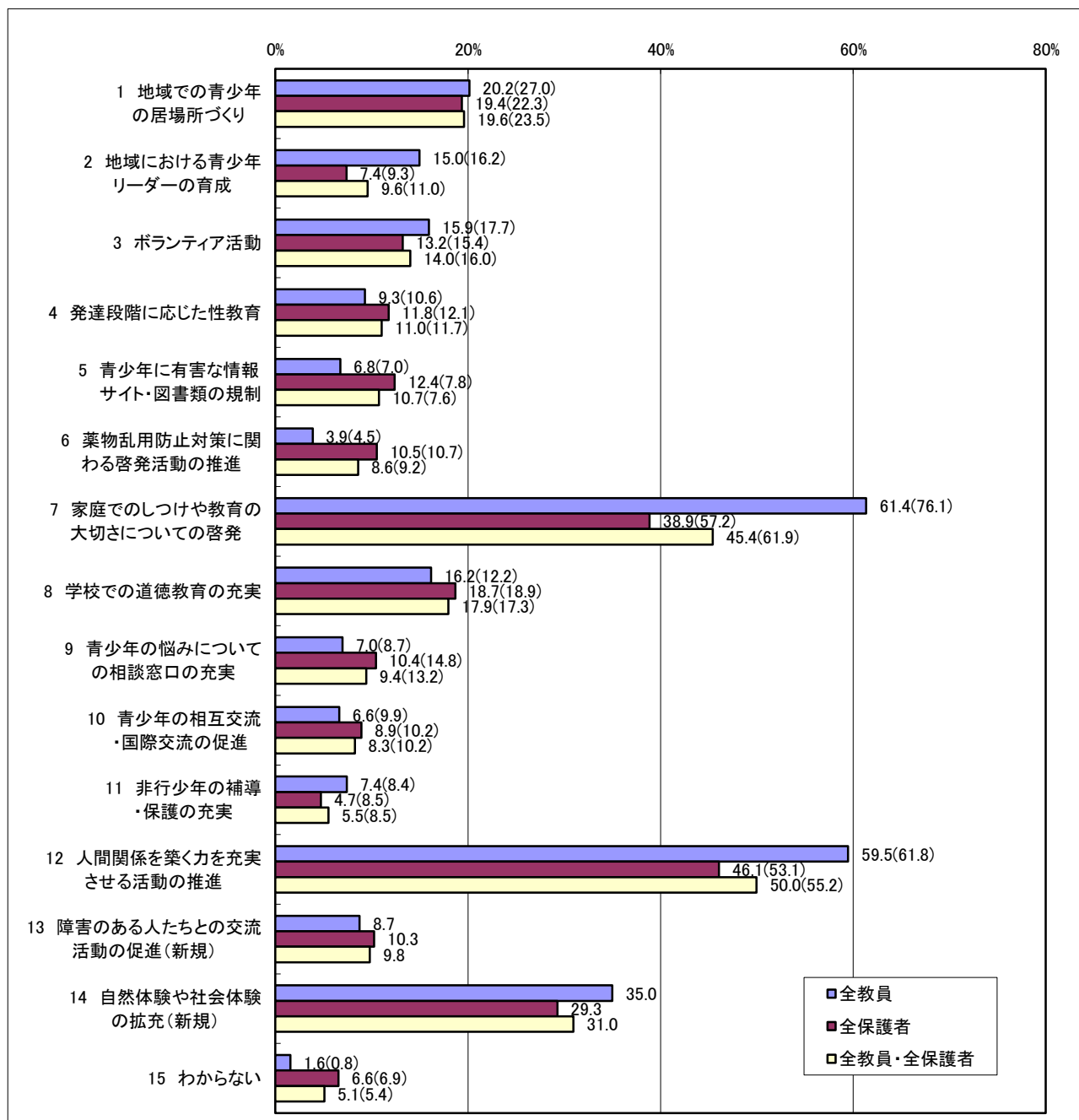
- 全教員、全保護者ともに、平成14、19年度は「思いやり」「責任感」が上位2項目に入っており、平成24年度は「礼儀正しさ」が1位である。
- 今回新たに加えた「コミュニケーション能力」は、全教員で3位に入っている。
- この10年で見ると、「礼儀正しさ」は、教員、保護者ともに増加している（教員 21.6ポイント増、保護者 14.8ポイント増）。

## 18 望ましい成長発達を支える取組 【教員…問18】 【保護者…問25】

青少年の望ましい成長・発達を支えていくためにはどのような取組が必要であると思いますか。次の中から三つまで選んで、番号を○で囲んでください。

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 地域での青少年の居場所づくり        | 2 地域における青少年リーダーの育成     |
| 3 ボランティア活動              | 4 発達段階に応じた性教育          |
| 5 青少年に有害な情報サイト・図書類の規制   | 6 薬物乱用防止対策に関わる啓発活動の推進  |
| 7 家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 | 8 学校での道徳教育の充実          |
| 9 青少年の悩みについての相談窓口の充実    | 10 青少年の相互交流・国際交流の促進    |
| 11 非行少年の補導・保護の充実        | 12 人間関係を築く力を充実させる活動の推進 |
| 13 障害のある人たちとの交流活動の促進    | 14 自然体験や社会体験の拡充        |
| 15 わからない                |                        |

※「13 障害のある人たちとの交流活動の促進」「14 自然体験や社会体験の拡充」を新設。



●全教員・全保護者で、回答した割合が高い順に、「人間関係を築く力を充実させる活動の推進」(50.0%)、「家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発」(45.4%)、「自然体験や社会体験の拡充」(31.0%)である。

●全教員・全保護者で、今回新たに加えた「自然体験や社会体験の拡充」「障害のある人たちとの交流活動の促進」を回答した割合はそれぞれ31.0%、9.8%である。

【経年比較】「望ましい成長発達を支える取組」の回答割合が高い項目

全 教 員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (79.1%)	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (76.1%)	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (61.4%)
	2	地域での青少年の居場所づくり (36.2%)	人間関係を築く力を充実させる活動の推進 (61.8%)	人間関係を築く力を充実させる活動の推進 (59.5%)
	3	学校での道徳教育の充実 (21.0%)	地域での青少年の居場所づくり (27.0%)	自然体験や社会体験の拡充 (35.0%)

全 保 護 者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (62.4%)	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (57.2%)	人間関係を築く力を充実させる活動の推進 (46.1%)
	2	地域での青少年の居場所づくり (30.9%)	人間関係を築く力を充実させる活動の推進 (53.1%)	家庭でのしつけや教育の大切さについての啓発 (38.9%)
	3	学校での道徳教育の充実 (27.7%)	地域での青少年の居場所づくり (22.3%)	自然体験や社会体験の拡充 (29.3%)

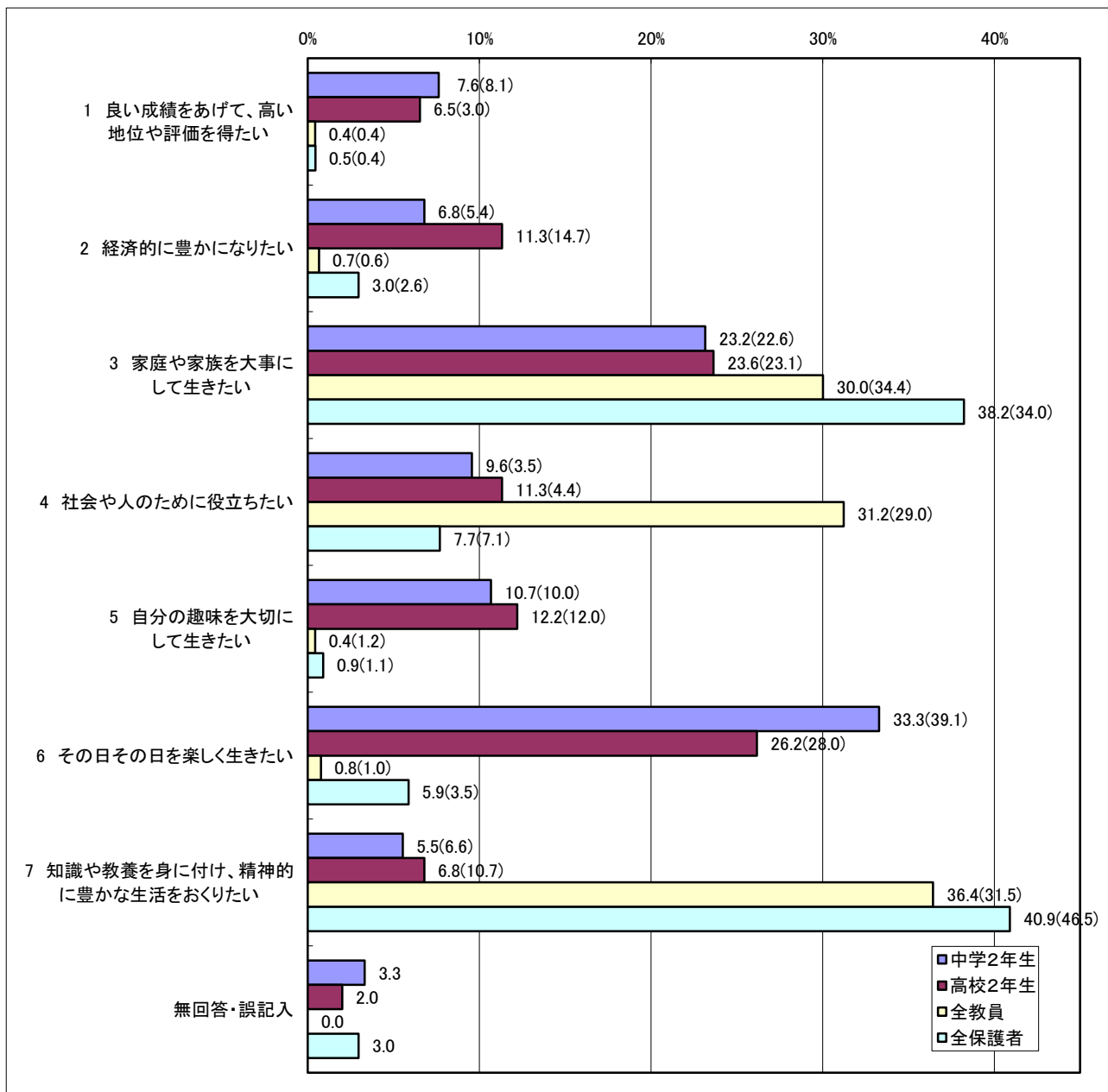
●平成14、19年度の上位3項目の内容と順位は、年度や教員、保護者の別によらず同じである。また、平成24年度の上位3項目の内容も教員、保護者の別によらず同じである。

●今回新たに加えた「自然体験や社会体験の拡充」は、平成24年度で全教員、全保護者ともに3位に入っている。

19 子どもの生き方【中学2年生…問31】【高校2年生…問32】【教員…問16】【保護者…問23】

人の生き方についていろいろな考え方がありますが、あなたの考え（児童生徒や子どもさんにどのような生き方をしてほしいと思いますか）に最も近いものを次の中から一つ選んで、番号を○でかこんでください。

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| 1 良い成績をあげて、高い地位や評価を得たい       | 2 経済的に豊かになりたい    |
| 3 家庭や家族を大事にして生きたい            | 4 社会や人のために役立ちたい  |
| 5 自分の趣味を大切に生きたい              | 6 その日その日を楽しく生きたい |
| 7 知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくりたい |                  |



- 「自分の趣味を大切に生きる」「その日その日を楽しく生きる」「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる」の項目において、生徒（中2・高2）と、大人（教員・保護者）の回答した割合に大きな差がある。
- 中2、高2ともに回答した割合が高い順に、「その日その日を楽しく生きる」（中2 33.3%、高2 26.2%）、「家族や家庭を大事にして生きる」（中2 23.2%、高2 23.6%）、「自分の趣味を大切に生きる」（中2 10.7%、高2 12.2%）である。
- 全教員で、回答した割合が高い順に、「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる」（36.4%）、「社会や人のためにつくす」（31.2%）、「家庭や家族を大事にして生きる」（30.0%）である。全保護者で、回答した割合が高い順に、「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活を送る」（40.9%）、「家庭や家族を大事にして生きる」（38.2%）、「社会や人のためにつくす」（7.7%）である。
- 「社会や人のために役立ちたい」の項目において、教員と生徒・保護者との間では、差が大きい。

【経年比較】「子どもの生き方」の回答割合が高い項目

中学2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	その日その日を楽しく生きる (39.0%)	その日その日を楽しく生きる (39.1%)	その日その日を楽しく生きる (33.3%)
	2	家族や家庭を大事にして生きる (22.9%)	家族や家庭を大事にして生きる (22.6%)	家族や家庭を大事にして生きる (23.2%)
	3	自分の趣味を大切に生きて生きる (13.1%)	自分の趣味を大切に生きて生きる (10.0%)	自分の趣味を大切に生きて生きる (10.7%)

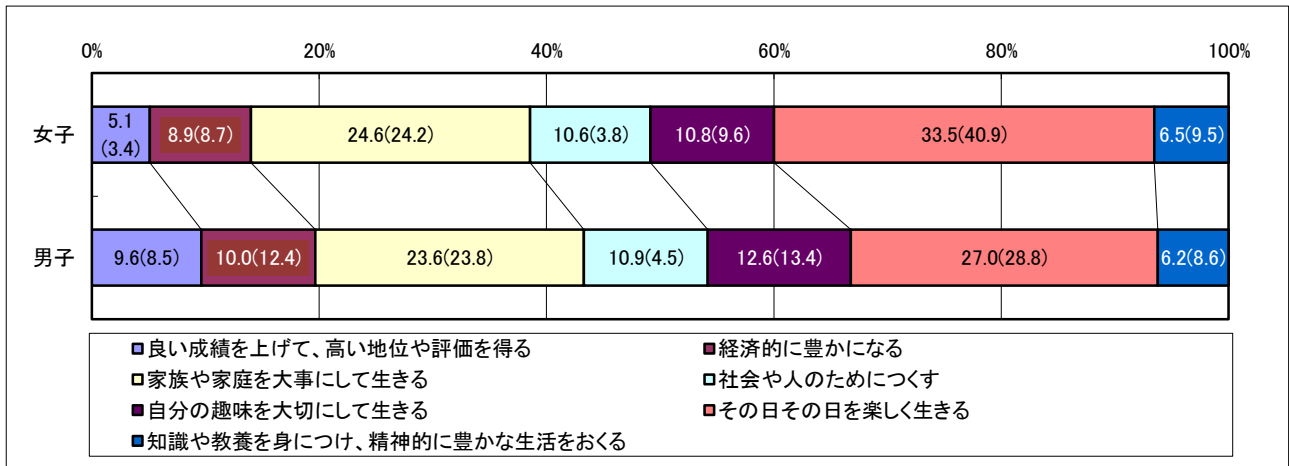
高校2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	その日その日を楽しく生きる (32.4%)	その日その日を楽しく生きる (28.0%)	その日その日を楽しく生きる (26.2%)
	2	家族や家庭を大事にして生きる (23.2%)	家族や家庭を大事にして生きる (23.1%)	家族や家庭を大事にして生きる (23.6%)
	3	経済的に豊かになる (12.3%)	経済的に豊かになる (14.7%)	自分の趣味を大切に生きて生きる (12.2%)

全教員	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (46.2%)	家族や家庭を大事にして生きる (34.4%)	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (36.4%)
	2	家族や家庭を大事にして生きる (27.5%)	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (31.5%)	社会や他の人のためにつくす (31.2%)
	3	社会や他の人のためにつくす (20.3%)	社会や他の人のためにつくす (29.0%)	家族や家庭を大事にして生きる (30.0%)

全保護者	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (48.8%)	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (46.5%)	知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活をおくる (40.9%)
	2	家族や家庭を大事にして生きる (30.2%)	家族や家庭を大事にして生きる (34.0%)	家族や家庭を大事にして生きる (38.2%)
	3	社会や他の人のためにつくす (7.9%)	社会や他の人のためにつくす (7.1%)	社会や他の人のためにつくす (7.7%)

●この10年の経年比較を見ると、中2の上位3項目の内容と順位は年度によらず同じである。高2の回答の1、2位は年度によって変わらず、平成24年度は、3位に「自分の趣味を大切に生きて生きる」が入り、上位3項目の内容と順位は中2と同じである。全教員の上位3項目の内容は年度によらず同じである。また、全保護者の上位3項目の内容と順位は年度によらず同じである。

## 男女別（全生徒）

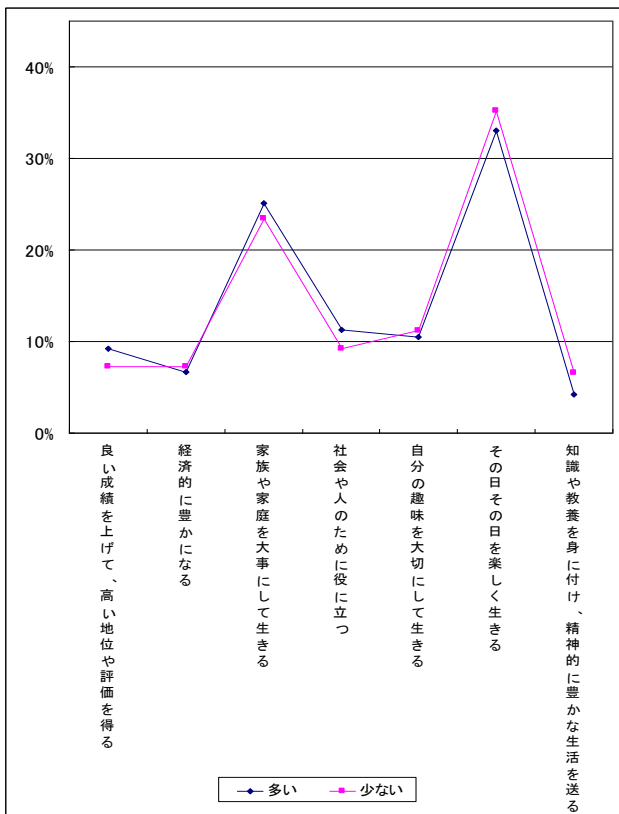


- 男女ともに、回答した割合が高い順に、「その日その日を楽しく生きる」、「家族や家庭を大事にして生きる」、「自分の趣味を大切に生きる」である。この順序は男女ともに平成19年度と同じである。
- 平成19年度と比較すると、「その日その日を楽しく生きる」の男女の差が12.1ポイントから6.5ポイントに縮まっている。

## 【クロス集計】「学習時間」と「子どもの生き方」との関係

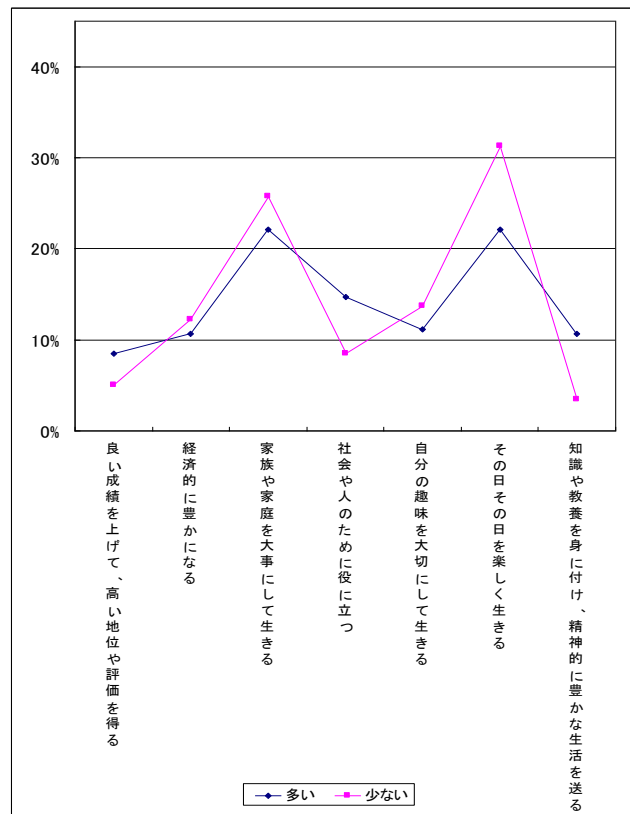
「学習時間」を、「多い」（「2時間位」以上）群と、「少ない」（「2時間位」未満）群に分け、「子どもの生き方」の各回答における割合を校種別に比較した（小学5年生は「子どもの生き方」の設問なし）。

### 【中学2年生】



- 学習時間の「多い」群と「少ない」群を比較して「生き方」に対する考え方の差は見られない。

### 【高校2年生】



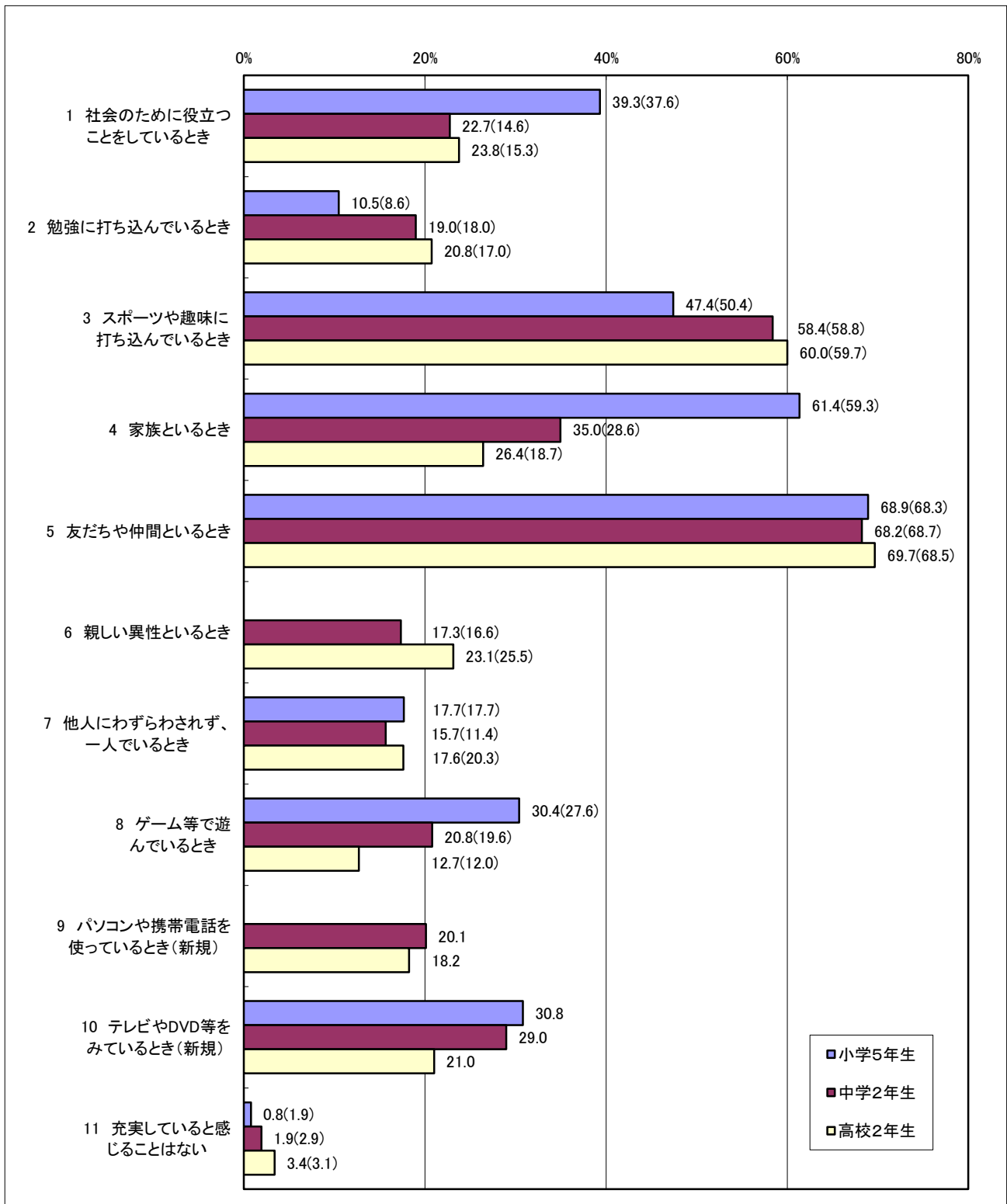
- 学習時間の「多い」群と「少ない」群を比較して、学習時間が「多い」群が「社会や人のために役に立つ」と「知識や教養を身につけ、精神的に豊かな生活を送る」と回答した割合が高く、「その日その日を楽しく生きる」と回答した割合が低い。



## 20 幸せを感じる時 【小学5年生…問30】 【中学2年生…問32】 【高校2年生…問33】

あなたはどんなときに充実していると感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んで番号を答えてください。

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 社会のために役立つことをしているとき | 2 勉強に打ち込んでいるとき     |
| 3 スポーツや趣味に打ち込んでいるとき  | 4 家族といるとき          |
| 5 友だちや仲間といるとき        | 6 親しい異性といるとき       |
| 7 他人にわずらわされず、一人であるとき | 8 ゲーム等で遊んでいるとき     |
| 9 パソコンや携帯電話を使っているとき  | 10 テレビやDVD等をみているとき |
| 11 充実していると感じることはない   |                    |



●各校種とも上位2項目は、平成19年度と同じである。

【経年比較】「幸せを感じる時」の回答割合が高い項目

小学5年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	友だちや仲間といるとき (68.9%)	友だちや仲間といるとき (68.3%)	友だちや仲間といるとき (68.9%)
	2	家族といるとき (53.4%)	家族といるとき (59.3%)	家族といるとき (61.4%)
	3	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (49.1%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (50.4%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (47.4%)

中学2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	友だちや仲間といるとき (75.1%)	友だちや仲間といるとき (68.7%)	友だちや仲間といるとき (68.2%)
	2	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (65.3%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (58.8%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (58.4%)
	3	家族といるとき (32.7%)	家族といるとき (28.6%)	家族といるとき (35.0%)

高校2年生	順位	平成14年度	平成19年度	平成24年度
	1	友だちや仲間といるとき (70.4%)	友だちや仲間といるとき (68.5%)	友だちや仲間といるとき (69.7%)
	2	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (66.8%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (59.7%)	スポーツや趣味に打ち込んでいるとき (60.0%)
	3	親しい異性といるとき (29.3%)	親しい異性といるとき (25.5%)	家族といるとき (26.4%)

●この10年の経年比較を見ると、小5、中2それぞれで上位3項目の内容と順位は年度によらず同じである。高2の1、2位は年度によって変わらず、平成24年度は3位に「家族といるとき」が入っている。